第4回（女子第1回）アジア選手権大会〈速報〉

〈男子〉見事オリンピック出場権を獲得

――女子は中国に惜しくも敗れる――

来年のソウル・オリンピックへのアジア代表の座を賭けた第4回（女子第1回）アジア選手権大会が8月20日から29日までの10日間、ヨルダンのアンマンで開催された。男子は11カ国、女子は6カ国が参加、オリンピック開催国の韓国を除く国々がアジアの代表の一つを賭けて激しい闘いをくり広げた。

ミュンヘン大会以来、常にオリンピック出場権を獲得して来ている男子は、近年力をつけて来ているクウェート、中国との三つ巴が予想されたが、まず予選リーグで27―12と予想外の大差で中国を降し勢いにのった。決勝リーグ初戦の韓国には惜しくもせり負けたものの、代表の座を賭けたクウェート戦では、見事な戦いぶりで激しいせり合いにせり勝ち、オリンピック出場権を獲得した。これで男子はミュンヘン以来連続5回のオリンピック出場権を獲得（モスクワ大会は不参加）、見事日本ハンドボールの伝統を守った。

一方女子も、男子とともにオリンピックへのアベック出場を目ざして大健闘を見せた。

ライバル中国との試合は、前・後半を終えて24―24の同点、延長戦も6―6で再び第2延長にもつれこむ、文字通り〝死闘〟となった。この第2延長で遂に日本女子は力尽きて結局31―34で敗れ、惜しくもオリンピック出場は逸してしまったが、当初劣勢を予想された日本チームが、中国を相手にここまで闘ったのは立派であり、選手諸君には称賛の拍手を送りたい。

アジア選手権は男女とも韓国が優勝を飾った。ついこの間まで日本が占めていた王座を、今や完全に韓国に奪われてしまった格好だが、来年のソウル・オリンピック、そしてそれ以後のアジア大会、アジア選手権、オリンピックに向けて、何とか王座奪回に向けて日本チームの健闘を祈りたい。

第4回（女子第1回）アジア選手権大会成績

〈男子〉

▼予選リーグ1組

韓国 38―21 バーレン
韓国 35―26 台湾
バーレン 26―25 台湾
（順位）①韓国②バーレン③台湾

▼予選リーグ2組

クウェート 26―19 カタール
ヨルダン 24―14 ネパール
カタール 23―23 ヨルダン
クウェート 41―6 ネパール
クウェート 31―12 ヨルダン
カタール 41―11 ネパール
（順位）①クウェート②カタール③ヨルダン④ネパール

▼予選リーグ3組

日本 27（15―6, 12―6）中国
シリア 24―14 パレスチナ
日本 24（10―9, 14―9）18 シリア
中国 37―17 パレスチナ
日本 33（17―9, 16―4）13 パレスチナ
中国 30―18 シリア
（順位）①日本②中国③シリア④パレスチナ

▼決勝リーグ進出決定戦

クウェート 29―18 バーレン
韓国 38―20 中国
日本 35（23―3, 12―9）12 カタール

▼決勝リーグ

韓国 28（17―12, 11―12）24 日本
韓国 36（16―21, 20―10）31 クウェート
日本 25（13―11, 12―12）23 クウェート
（順位）①韓国②日本③クウェート

▼4～6位決定リーグ

中国 21―10 バーレン
中国 21―15 カタール
バーレン 17―12 カタール

▼7～9位決定リーグ戦

シリア 22―18 ヨルダン
台湾 42―25 ヨルダン
台湾 28―20 シリア

▼10・11位決定戦

パレスチナ 32―22 ネパール

（最終順位）①韓国②日本③クウェート④中国⑤バーレン⑥カタール⑦台湾⑧シリア⑨ヨルダン⑩パレスチナ⑪ネパール

〈女子〉

▼予選リーグ第1組

韓国 32（5―9, 17―7）16 日本
韓国 42―11 台湾
日本 35（20―12, 15―8）20 台湾
（順位）①韓国②日本③台湾

▼予選リーグ第2組

中国 40―8 ヨルダン
中国 40―8 シリア
シリア 25―11 ヨルダン
（順位）①中国②シリア③ヨルダン

▼準決勝

韓国 37―6 シリア
中国 34（4―1, 6―6, …, 12―13, 12―11）31 日本

▼5・6位決定戦

台湾 43―15 ヨルダン

▼3・4位決定戦

日本 23（10―5, 13―4）9 シリア

▼決勝

韓国 34―24 中国

（最終順位）①韓国②中国③日本④シリア⑤台湾⑥ヨルダン

昭和62年度全国高校総体（第38回全国高校選手権大会）は、8月1日から7日まで北海道札幌市で開催された。今年のインターハイ、天候に恵まれず、珍しく“寒い”インターハイとなったが、高校生諸君は栄冠目ざして“熱い”戦いをくり広げた。

男子は、春の選抜の覇者・久留米工大付属（福岡）が、安定した強さを見せ、決勝で同じ九州勢の熊本商を破って4年ぶり5回目の優勝を飾り、春夏連覇を遂げて“三冠”に一歩近づいた。

女子は佼成学園女子（東京）が、準々決勝で名古屋短大付属を延長戦で、準決勝で春の優勝校・昭和学院を1点差で破り、激戦を勝ち抜いて決勝では秋田・大曲農を大差で降し、念願の初優勝を飾った。

〔男子〕

優勝・久留米工業大学附属

久留米工業大学附属（福岡）
32(16−7, 16−15)22
東邦大学付属東邦（千葉）
22(9−4, 13−6)10
江津（島根）
21(9−8, 12−10)18
三島（大阪）
29(12−6, 17−6)12
高松商業（香川）
39(16−9, 23−6)15
学校法人石川（福島）
38(18−5, 20−10)15
川口工業（埼玉）
18(9−14, 9−9)23
長崎日本大学（長崎）
27(14−8, 13−9)17
那賀（和歌山）
27(13−12, 14−13)25
小松工業（石川）
21(10−6, 11−11)17
倉敷工業（岡山）
27(12−18, 15−10)28
桜台（愛知）
21(10−10, 11−9)19
都城工業（宮崎）
19(8−9, 11−13)22
函館有斗（北海道）
22(10−7, 12−10)17
日本大学山形（山形）
10(4−13, 6−7)20
四日市工業（三重）
16(4−14, 12−11)25
日本大学明誠（山梨）
17(8−4, 9−8)12
大谷（京都）
19(6−13, 13−11)24
高知西（高知）
8(3−14, 5−17)31
北陸（福井）
22(7−18, 15−21)39
下松工業（山口）
19(6−15, 13−16)31
仙台育英学園（宮城）
18(7−13, 11−14)27
鹿児島工業（鹿児島）
17(11−11, 6−13)24
明星（東京）

29(14−9, 15−10)19

興南（沖縄）
21(12−6, 9−9)15
松山北（愛媛）
15(2−13, 13−9)22
尾道（広島）
24(12−4, 12−8)12
長浜北（滋賀）
27(9−12, 18−12)24
岩井（茨城）
21(10−11, 9−8, 0−3, 2−5)27
青森商業（青森）
31(19−16, 12−10)26
釧路湖陵（北海道）
15(5−15, 10−13)28
柏崎（新潟）
20(8−9, 12−15)24
小山南（栃木）
21(11−11, 10−7)18
添上（奈良）
19(7−9, 12−9)18
盛岡第一（岩手）
15(4−13, 11−10)23
神埼農業（佐賀）
20(7−13, 13−16)29
湯沢（秋田）
20(9−13, 11−8)21
岐阜商業（岐阜）
22(5−13, 17−13)26
富岡（群馬）
21(11−12, 10−11)23
大分電波（大分）
23(11−15, 12−13)28
西宮東（兵庫）
27(17−12, 10−17)29
高岡向陵（富山）
23(10−21, 13−10)31
三好農林（徳島）
22(10−22, 12−19)41
清水市立商業（静岡）
15(6−18, 9−13)31
熊本市立商業（熊本）
26(11−14, 15−10)24
境（鳥取）
27(12−6, 15−12)18
屋代（長野）
14(5−22, 9−18)40
横浜商工（神奈川）

"寒い"北海道で"熱い"戦い

〔女子〕

優勝・佼成学園女子

決勝: 30(15−5, 15−8)13

昭和学院(千葉)
21(11−5, 10−6)11
富岡東(徳島)
14(6−6, 8−8, 0−3, 0−4)21
盛岡第二(岩手)
21(11−9, 10−7)16
向陽(京都)
31(11−5, 20−6)11
境(鳥取)
12(6−13, 6−10)23
熊本女子商業(熊本)
19(12−8, 7−5)13
函館女子商業(北海道)
16(5−9, 11−9)18
青森西(青森)
25(13−2, 12−4)6
添上(奈良)
16(4−13, 12−11)24
松江市立女子(島根)
7(1−6, 6−7)13
大分雄城台(大分)
9(6−4, 3−5, 0−1, 0−1)11
水海道第二(茨城)
11(4−4, 7−8)12
山梨(山梨)
10(6−8, 4−9)17
具志川(沖縄)
28(11−8, 17−6)14
松山北(愛媛)
19(9−15, 10−19)34
小松商業(石川)
24(11−9, 13−5)14
郡山女子(福島)
13(9−6, 4−8)14
名古屋短期大学付属(愛知)
19(11−10, 5−6, 1−4, 2−1)21
福井商業(福井)
23(13−6, 10−8)14
岐阜商業(岐阜)
15(7−9, 8−2)11
鹿児島純心女子(鹿児島)
10(3−15, 7−15)30
山陽女子(広島)
12(6−6, 6−10)16
彦根商業(滋賀)
14(5−10, 9−6)16
佼成学園女子(東京)

川口青陵(埼玉)
24(11−7, 13−12)19
夙川学院(兵庫)
18(8−6, 10−9)15
新潟江南(新潟)
12(4−13, 8−9)22
岩国商業(山口)
20(8−9, 9−8, 1−1, 2−0)18
静岡城北(静岡)
25(15−7, 10−5)12
有馬商業(長崎)
18(10−10, 8−13)23
群馬女子短大附属(群馬)
17(9−5, 8−10)15
中村(高知)
8(5−19, 3−14)33
四天王寺(大阪)
18(9−14, 9−17)31
神埼農業(佐賀)
17(6−17, 11−13)30
大曲農業(秋田)
24(11−10, 13−11)21
暁(三重)
21(11−7, 10−9)16
九州女子(福岡)
15(9−10, 6−9)19
西大寺(岡山)
13(7−11, 6−10)21
栃木女子(栃木)
21(12−7, 9−4)11
日本大学山形(山形)
11(4−12, 7−14)26
有磯(富山)
10(8−8, 2−12)20
粉河(和歌山)
16(6−9, 10−6)15
上磯(北海道)
14(4−12, 10−10)22
佐久(長野)
13(8−10, 5−11)21
聖和学園(宮城)
13(3−5, 10−12)17
高松商業(香川)
12(7−14, 5−11)25
有馬(神奈川)
14(5−7, 9−5)12
本庄(宮崎)

男子

久留米工大付が春夏連覇

1回戦

東邦（千葉）22（9－4／13－6）10 **江津**（島根）

〔戦評〕立ち上がりすぐ、相手パスミス、ボールカットで2点を先取、東邦のペースで進んだ。東邦はシュートミス、江津はパスミスが目立った。東邦の福島のセットからのシュート、動きが良かった。前半は9－4で終了、後半は東邦が速攻で先取、その後も東邦ペース、前半と同様江津はパスミス東邦はシュートミスが目立ったが、総合力に勝る東邦が江津を22－10で下した。（武田稔雄）

〔江津〕得 0 0 2 4 2 0 2 0 0 0

野野川木井畑田田井脇本

深河西青奥高石岩高森山

GK　FP（審・島田　後藤）

貫山沢田島沼本入下畑杉知

島栗永岡福上藤坂宮池村古

得〔東邦〕0 0 1 1 3 0 9 7 1 0 0 0

10　(1)　PT　(0)　22

三島（大阪）29（12－6／17－6）12 **高松商**（香川）

〔戦評〕立ち上がり三島は、鳥平の3連続得点から7点を連取し、一方的な試合展開になるかと思われたが、その後高松商も盛り返し12－6で前半を終えた。前半、得点のチャンスをシュートミスでつぶし、三島の逆速攻で点差をあけられた高松商は、後半に入っても攻撃には精彩を欠き、三島のディフェンスを思うように破れず、点差を詰める事ができぬまま終了の笛を聞いた。（後藤登）

〔高松商〕得 0 0 2 1 4 3 1 0 1 0 0 0

橋内田尾尾川原野川松田田

大岡植村高北東藤藤赤鎌吉

GK　FP（審・菅野　半田）

島本田井田坊坂平上井本松

勢

福岸山白有伊小鳥井吉福平

得〔三島〕0 0 3 2 3 6 2 12 1 0 0 0

12　(2)　PT　(3)　29

長崎日大（長崎）27（14－8／13－9）17 **那賀**（和歌山）

〔戦評〕両チームとも開幕戦のためか立ち上がり緊張感で萎縮していたようだが、徐々にスピードあるプレイが出てきた。那賀は小粒だがスピードがあり、小回りのきくチーム、キーパーは小さいが、速攻をよく止め、体でとる理想のタイプ、上背に勝る長崎日大が、45度、ポストと手堅くまとめて勝った。双方ともスピードがあり好感が持てた。（星保信）

〔那賀〕得 0 0 8 7 0 0 0 1 0 1 0 0

上川芝城嶋藤井井露閑宮野

井中中宮小伊土中中古田飯

GK　FP（審・山辺　林）

見山本　邦創佐口本上津柳

森手手

増牧松　井井稲濱山井大小

得〔長崎日大〕0 0 1 4 0 9 3 6 0 2 2 0

17　(0)　PT　(3)　27

小松工（石川）21（10－6／11－11）17 **倉敷工**（岡山）

〔戦評〕お互いに立ち上がり堅さが見られ、パス、キャッチミスが多かった。3分過ぎ、倉敷工がペナルティーで先制、その後一進一退。14分過ぎ、小松工・川端がジャンプシュートを決め逆転、ポスト、速攻でペースをつかみ、前半10－16で終る。

後半に入り、倉敷工も頑張りを見せるが、大事なところでシュートミスが出て、差を縮める事ができず、残念ながら涙を飲む。（林俊夫）

〔倉敷工〕得 0 0 4 1 1 7 1 0 0 1 0 2

越堀藤手本秋幸田田島原野

田田津

鳥　近坂坂園園吉原中宮小

GK　FP（審・星　伊藤）

田口原端渕見村田野山田永

戸

池木河川江松中福中幸前杉

得〔小松工〕0 0 4 3 4 5 2 3 0 0 0 0

17　(1)　PT　(2)　21

函館有斗（北海道）22（10－7／12－10）17 **日大山形**（山形）

〔戦評〕北海道にとって記念すべき行啓試合。前半、地元函館有斗に堅さがみられ、パスミス、シュートミスが目立った。そのミスを日大山形は確実に速攻に結びつけた。しかし、脚力に勝る有斗は、多彩な攻めで10－7とリードして終る。後半、有斗は速攻を中心に着々と加点、一方山形は有斗の固い守りを攻めあぐんでいたが、有斗に退場者が出てから反撃を見せたが及ばず、函館有斗が走り勝った一戦だった。（倉本紘一）

〔日大山形〕得 0 0 0 0 0 0 1 4 0 9 3 0

藤叶原山柏嵐橋貝坂藤平坂

十

伊　清浦箭五高勝黒遠工石

GK　FP（審・斉藤　千野）

藤　部保橋美藤谷野嶋橋崎

松

佐　建久高字伊紅駒寺三岩

得〔有斗〕0 0 1 1 10 0 2 0 0 8 0 0

17　(2)　PT　(1)　22

日大明誠（山梨）25（14－4／11－12）16 **四日市工**（三重）

〔戦評〕前半、明誠の走りの良い攻めの前に、四日市工のディフェンスは再三重なっての守りをし、カットインのチャンスを与えた。後半は互いに打ち合い盛り上がったが、ディフェンス力とフェイントに勝る日大明誠が、常に落ち着いたプレーで要所を押さえ、四日市工の追撃をかわした。（千野恒夫）

〔四日市工〕得 0 0 6 4 1 0 0 4 0 1 0 0

橋島野匂田野田湖田坂峰井

保

大川奥酒城大池多久稲高藤

GK　FP（審・倉本　佐藤）

沢原井沢林月田井西上野子

柳篠福鮎竹若会荒川井西金

得〔日大明誠〕0 0 0 1 3 7 4 7 1 0 2 0

16　(2)　PT　(0)　25

下松工（山口）39（18－7／21－15）22 **北陸**（福井）

〔戦評〕前半10分までは、一進一退の攻撃で面白いゲーム展開であったが、15分過ぎより下松工ロングシュート、ポストシュートとうまく加点し、大差をつけ前半終了。後半も下松工は全員でよく走り、試合をものにする。北陸もよく走

り、最後まで試合を捨てなかったが、下松工の堅いディフェンスに阻まれ、なかなか得点できず涙を飲んだ。（横瀬藤雄）

得	〔北陸〕		〔下松工〕	得
0	岡田輝	GK	岡	0
0	西田	GK	黒川	0
5	橋本	FP	湯浅	12
3	川下	FP	溝渕	6
0	田口	FP	藤井	5
3	今出	FP	湊	3
6	森国	FP	御厨	6
0	黒田	FP	三奈木	4
3	斉藤	FP	上野	0
0	山口	FP	小川	2
2	姉崎	FP	藤村	0
0	岡田直	FP	南	1
22	(1)	PT	(4)	39

（審・浅野 清水）

鹿児島工（鹿児島）27（13－7／14－11）18 育英（宮城）

〔戦評〕開始早々、仙台育英・佐藤の退場で鹿児島工4－0とリード。その後も育英は鹿児島工の堅いディフェンスを攻め切れず、反対に鹿児島工は持ち前のスピードに乗ったプレーで徐々に点差を広げ、13－7で前半を終了。

後半に入ると育英のミドルシュートが決まり出し、互角の展開を見せたが、最後までスピードの落ちない鹿児島工のペースをくずせず27－18と点差が広がって終了。（清水勝）

得	〔育英〕		〔鹿児島〕	得
0	森元	GK	益溝	0
0	小笠原	GK	坂口	0
3	斉藤	FP	吉留	6
3	佐藤	FP	大茂盛	2
0	菊地	FP	多比	0
9	阿部	FP	上村	13
2	坪山	FP	今別	0
1	馬場	FP	大茂重	2
0	伊藤	FP	芹ヶ野	2
0	小玉	FP	今神	2
0	高島	FP	立山	0
0	内海	FP	堀川	0
18	(4)	PT	(2)	27

（審・横瀬 矢澤）

尾道（広島）22（13－2／9－13）15 松山北（愛媛）

〔戦評〕尾道は、松山北のエース加藤、林を前によく出たディフェンスでシュートコースをおさえ、得点を与えず、尾道は小崎のロング、宮本のディフェンスの脇の下を抜くシュートで着実に得点を加え、全く危なげない勝利。後半に入ってからの松山北のディフェンスが前半から出ていればと惜しまれる。（島田房二）

得	〔松山北〕		〔尾道〕	得
0	安永	GK	岡田	0
0	松崎	GK	西原	0
4	大森	FP	王野	4
3	玉井	FP	小崎	7
0	中井	FP	猪爪	0
1	奥村	FP	宮本	4
0	加藤	FP	大平	4
4	林	FP	神田	2
0	網本	FP	桑田	0
3	黒川	FP	中田	1
0	三須田	FP	竹国	0
0	山本	FP	松林	0
15	(0)	PT	(2)	22

（審・菅野 半田）

長浜北（志賀）27（9－12／18－12）24 岩井（茨城）

〔戦評〕前半両チームともに少々固さが見られたが、10分過ぎ岩井がペースをつかみ、徐々にリードするかに思われたが、残り5分頃長浜北もリズムをつかみ3点差で前半終了。

後半は、シーソーゲームの連続で16分に同点、18分長浜北・中山の連続ゴールで逆転、そのまま押し切った。岩井の大事なところでのミスが痛かった。（半田忠）

得	〔岩井〕		〔長浜北〕	得
0	中島	GK	長谷川	0
0	稲葉	GK	成田	0
9	小口	FP	中山	10
5	山崎	FP	吉川隆	1
2	前野	FP	中川勉	2
1	生井	FP	田川	4
1	数藤	FP	中川良	1
1	吉原	FP	清水	0
2	高木	FP	岩田	6
0	田浜	FP	河村	2
3	金子	FP	吉川英	1
0	江本	FP	山岡	0
24	(2)	PT	(2)	27

（審・武田 小越）

小山南（栃木）24（9－8／15－12）20 柏崎（新潟）

〔戦評〕両チームとも同じような攻撃をくり返すが、徐々に小山南のポストシュート、サイドシュートが決まり、リードするかに見えたが、柏崎も速攻、サイドシュート、窪田のロングシュートで盛り返し、前半は小山南が1点をリード。後半、両チームとも動きが速くなり、見応えのあるゲームとなる。展開力にやや力のある小山南が、武井のシュートと速い展開でリードして終了する。（浅野喜圀）

得	〔柏崎〕		〔小山南〕	得
0	権田	GK	横尾	0
0	森	GK	青鹿	0
2	佐藤	FP	武井	8
0	石橋	FP	平野	1
3	木村	FP	関根	6
11	窪田	FP	吉田	3
1	栃堀	FP	坂本	3
3	加納	FP	松本	3
0	桐山	FP	荒井	0
0	根立	FP	後藤	0
0	小山	FP	塚田	0
0	関	FP	平塚	0
20	(3)	PT	(2)	24

（審・矢澤 横瀬）

添上（奈良）19（7－9／12－9）18 盛岡一（岩手）

〔戦評〕ともに小粒ではあるが洗練されたチーム同士の対戦。

前半、添上GK深瀬の再三にわたる好守備に盛岡も攻めあぐんだが、9－7と盛岡の2点リードで終る。後半は添上のペースで進み、12分に遂に逆転。その後も着実に加点した。盛岡も添上ペースの間じっと耐え、ジリジリと反撃体制を整え、17分に同点、22分には同点した後にすぐにパスカットから得点とペースをつかみかけたが、結局一進一退の攻防がつづき、残り50秒で添上のペナルティーが決まり勝敗が決した。（矢澤達司）

得	〔盛岡一〕		〔添上〕	得
1	中居	GK	深瀬	0
0	高橋	GK	川畑	0
2	北條	FP	鈴木	2
1	阿部	FP	後藤	5
5	辺見	FP	奥谷	6
3	海野	FP	東	4
2	島	FP	小出	0
2	石岡	FP	馬場	1
2	八重樫	FP	中川	1
0	鈴江	FP	小柳	0
0	鈴木	FP	松谷	0
0	小向	FP	北脇	0
18	(1)	PT	(2)	19

（審・浅野 清水）

富岡（群馬）26（13－5／13－17）22 県岐阜商（岐阜）

〔戦評〕立ち上がりより着実にチャンスを得点に結びつけた富岡に対し、岐阜商は富岡の堅いガード、及びノーマーシュートなどのミスもあり、ペースをつかめず前半で13－5と富岡が大きくリード。これに対し岐阜商は、後半シャープ

な動きを見せ速攻を主体に追い上げたが、前半の点差が大きく及ばなかった。（伊藤靖）

〔岐阜商〕	得		得	〔富岡〕
浅野	0	GK	0	棚橋
草川	1		0	大塚
坂井	5	FP	0	今泉
堀	0		6	安藤
松山	4		7	古田
田沢	5		1	渡辺
栗本	0		0	白石
井上	5		6	勅使河原
木下	2		3	加部
今瀬	0		2	市川
岡部	0		0	佐々木
			1	岩田
22	(1)	PT	(2)	26

（審・山辺 林）

市西宮東（兵庫）28（15－11、13－12）23 大分電波（大分）

〔戦評〕前半序盤は、両チームのエースの打ち合いで非常に見応えがあったが、退場者の出た時間をよくしのいだ西宮東のリードで前半を終了。後半に入り、大分電波は西宮東のエース・広瀬、野口に対し、マンツーマン防衛で活路を見い出そうとしたが、フリースロー！から野口のシュートは相手ゴールに突きささり、どうしても点差は縮まらなかった。両チームとも特色を生かした一戦であった。（佐藤博明）

〔大分〕	得		得	〔西宮東〕
篠田	0	GK	0	窪田
村瀬	0		0	森川
藤田	1	FP	4	広瀬
荻本	0		1	栗原
妹尾	0		9	野口
幡東	1		2	藤本
宿利	2		8	秋吉
大野	6		1	永井
高松	6		0	村上
伊南	7		3	川内
後藤	0		0	黒木
平松	0		0	清水
23	(3)	PT	(0)	28

（審・斉藤 千野）

熊本市商（熊本）31（18－6、13－9）15 清水市商（静岡）

〔戦評〕前半、熊本市商は全員がよく走り、速攻を中心に着実に点を加えた。一方清水市商はロングを中心に積極的な攻めを見せるが、熊本の高いディフェンスを破ることはできず前半を終了する。後半に入っても熊本のスピードは衰えず、必死に食い下がる清水を突き放した。（小越康雄）

〔清水〕	得		得	〔熊本〕
伏見	0	GK	0	宮本
石川	0		0	増永
村田	2	FP	1	樋口
細川	1		6	阿萬
池田	0		3	中村
杉山	0		2	改田
中野	0		10	浦塘
小田	2		4	鶴田
川島	0		5	岩本
望月	3		0	宮本
若杉	5		0	赤星
岩崎	2		0	門口
15	(3)	PT	(2)	31

（審・島田 後藤）

境（鳥取）27（12－6、15－12）18 屋代（長野）

〔戦評〕前・後半を通して、境は板倉を中心に速攻と速いパスワークのセットからのシュートを決め、常にリードを保った。一方屋代は、ロングで対応していくが、なかなかチャンスを作れず、一時は追い上げようとしたが逆速攻をかけられ点差が広がった。（菅野肇）

〔屋代〕	得		得	〔境〕
柳沢	0	GK	0	樋口
渡辺	0		0	松田
宮本	10	FP	1	小林
渋沢	1		3	花井
滝沢	1		8	柏木
北村	0		13	板倉
竹田	0		1	松本
杵渕	1		1	高野
笠井	0		0	平岡
鈴木	3		0	恩重
小野	2		0	榧野
小林	0		0	池淵
18	(2)	PT	(2)	27

（審・武田 小越）

2回戦

久留米工大付（福岡）32（16－7、16－15）22 東邦

〔戦評〕バランスのとれたよく洗練されたチーム同士の対戦となった。序盤戦は、カットインプレーの応酬から互角の展開であったが、前半10分過ぎから高さとスピードを誇る久留米工大付が点差を開いていく。後半も早いディフェンスの詰めとGKの好守から、テンポの速いパス回しと相まって、カットイン、ロングシュート、ポストプレーから着実に得点をあげ勝利する。東邦大付も好チームで善戦したが、力及ばず終了する。（増田学）

〔東邦〕	得		得	〔久工大附〕
島貫	0	GK	0	篠崎
栗山	0		0	久保田仁
永沢	1	FP	8	中山
岡田	4		1	平野
福島	6		4	東島
上沼	0		3	杉元
藤本	7		9	久保田圭
坂入	3		6	後藤
宮下	1		0	安永
池畑	0		0	井上
村杉	0		1	石丸
古知	0		0	志田
22	(2)	PT	(3)	32

（審・錦織 棚橋）

三島 39（16－9、23－6）15 学法石川（福島）

〔戦評〕三島の先制で始まり、中盤両校シュートミスが多く、波に乗れず苦戦したが、三島のリードで前半を終る。後半、三島は速攻、セット攻撃ともに決まり出し、学法石川はペースをつかめず、攻守に勝る三島が勝利をものにした。（錦織進）

〔石川〕	得		得	〔三島〕
安孫子	0	GK	0	福島
水野	0		0	岸本
矢内	0	FP	10	山田
鈴木	5		3	白井
森	2		1	有田
岡部	0		8	伊勢坊
鈴木	2		3	小坂
内田	0		14	鳥平
藤宮	3		0	井上
藤田	0		0	伊東
矢内	2		0	上田
久和	1		0	福本
15	(1)	PT	(5)	39

（審・増田 田村）

長崎日大 23（14－9、9－9）18 川口工（埼玉）

〔戦評〕ポスト、フェイント攻撃を主体にした川口工が、ゲーム開始早々リードを奪い、それをサウスポーのロングシューター・森を有する長崎日大が追いかける白熱した好ゲームとなった。しかし、前半残り5分、長崎日大は速攻で連取し、5点差をつけ折り返した。

後半、川口工はポストプレーで連取し、再三2点差まで詰め寄ったが、パワーで少し勝る長崎日大が川口工の追撃を振り切った。

川口工に惜しまれるのは、後半残り10分、2点差での長崎日大の退場場面を生かせなかった事である。（岡本研二）

〔川口工〕	得		得	〔長崎日大〕
新井	0	GK	0	増見
伊藤将	0		0	牧山
古沢	3	FP	1	松本
諸橋	2		6	森
伊藤直	4		0	井手邦
荻田	4		2	井手創
清水	4		1	稲佐
佐藤	1		7	濱口
門田	0		1	山本
藤原	0		2	井上
榎本	0		3	大津
荻原	0		0	小柳
18	(1)	PT	(2)	23

（審・武田 田中）

桜台（愛知）28（18－12、10－15）27 小松工

〔戦評〕桜台の先取点でスタート。その後10分位までせり合いがつづいたが、その後桜台・榎本のシュートが良く決まり、前半は18－12。後半に入り小松工が追い上げ、1点差までいくがどうしても同点にすることができず、桜台が辛くも逃げ切った。（武田節夫）

〔小松工〕	得		得	〔桜台〕
池田	0	GK	0	岩佐
木戸口	0		0	阪野
河原	4	FP	1	山田
川端	2		16	内田
江渕	2		3	鈴村
松見	2		1	鎌田
中村	8		6	榎本
福田	9		1	島本
中野	0		0	山上
幸山	0		0	服部
前田	0		0	斉藤
杉永	0		0	鬼頭
27	(3)	PT	(5)	28

（審・北山 浜野）

函館有斗 22（9－8、13－11）19 都城工（宮崎）

〔戦評〕同タイプの両チームの戦い。再三速攻を試みるが、両チー

ムのGKの好守により大変盛り上がった試合になる。特に都城GKの好守が目立つが、地元の勢いで1点差で前半終了。後半も前半と同様の展開になるが、セットオフェンスの力に一日の長がある函館有斗が接戦を制する。

高校生らしいファイトのある好ゲームであった。（浜野修）

得	〔有斗〕		〔都城工〕	得
0	佐藤	GK	野元	0
0	松		川野	0
1	建部	FP	平川	8
3	久保		和田	3
3	高橋		池田	1
1	宇美		小原	1
3	伊藤		内田	4
0	紅谷		上原	0
1	駒野		相馬	2
10	寺嶋		徳丸	0
0	三橋		中村	0
0	岩崎		関	0
22	(2)	PT	(3)	19

〔審・岡本 清水〕

日大明誠 17 〔8－4 9－8〕 12 大谷（京都）

〔戦評〕前半、大谷の先取点で始まるが、両チームともにセット攻撃が主体となるが、チャージングが多く思うようにリズムに乗れない。それでも、シュート力に勝る日大明誠が8－4と前半リードを奪う。後半に入って大谷は、セットを中心に攻撃する。一方日大明誠は、ロング、ポスト、速攻とゲーム内容の幅が出る。残り1分30秒に日大明誠は、反則退場から5人となるが、良く守って逃げ切る。（田中勇）

得	〔日大明誠〕		〔大谷〕	得
0	柳沢	GK	飯田	0
0	篠原		木村	0
0	福井	FP	井上	4
3	鮎沢		八木	2
4	竹林		前田	1
1	若月		松下	1
3	会田		石塚	0
1	荒井		南	3
0	川西		谷	0
5	西野		伊藤	0
0	金子		中川	1
0	井上		山本	0
17	(1)	PT	(2)	12

〔審・北山 浜野〕

下松工 31 〔17－5 14－3〕 8 高知西（高知）

〔戦評〕前半、下松工が湯浅の活躍と両サイドの速攻で次々と得点、高知西は11分過ぎやっとPTを決めたが、自分たちのペースがつかめずシュートミスから相手の速攻にやられた。後半、高知も走りを見せ頑張るが、下松工の堅いディフェンスになかなか得点できず苦戦した。一方下松工は、全員がよく走り、自分たちのペースをしっかり守り、2勝目をあげた。（菅野肇）

得	〔下松工〕		〔高知西〕	得
0	岡	GK	沢田	0
0	黒川		久武	0
13	湯浅	FP	川本	0
2	溝渕		山岡	1
7	藤井		山本	1
2	湊		山下	0
5	御厨		寺田	2
1	三奈木		尾崎	2
1	上野		山中	0
0	小川		中田	0
0	山本		北村	1
0	南		三宮	1
31	(1)	PT	(2)	8

〔審・島崎 井上〕

明星 24 〔13－6 11－11〕 17 鹿児島工（東京）

〔戦評〕立ち上がり明星が2点を先取、明星ペースで進むかと思われたが、鹿児島工が徐々に追いつき、互角に前半11－11で戦い終った。後半開始10分には、明星ペースで5点差と離した。中盤以降も明星ペースで進み24－17で終了した。（武田稔雄）

得	〔明星〕		〔鹿児島工〕	得
0	神田	GK	益満	0
0	守随		坂口	0
10	布田	FP	吉留	5
5	清水		大茂盛	1
3	萩原		多比良	0
0	酒井		上村	4
0	三浦		今別府	0
3	倉持		大茂重	1
0	種茂		芹ヶ野	5
1	井出		今神	1
0	前田		立山	0
2	五島		堀川	0
24	(6)	PT	(1)	17

〔審・菅野 半田〕

興南 21 〔12－6 9－9〕 15 尾道（沖縄）

〔戦評〕興南はロング、スカイ、ポストと多様にシュートを打ち分け、前半を優位に進めた。尾道は相手のディフェンスに阻まれ、シュートも散発だったが、後半に入るとGKの好守もあり、速攻が決まり出し、後半は同等にゲーム展開、前半の得点差が悔まれる。（島崎政治）

得	〔興南〕		〔尾道〕	得
0	我謝	GK	岡田	0
			西原	0
0	宮城	FP	王野	0
2	金城		小崎	4
0	渡ヶ次		猪瓜	0
0	上原徳		宮本	5
0	具志堅		大平	5
4	吉浜		神田	1
6	上原尚		桑田	0
3	嶺井		中田	0
5	又吉		竹国	0
1	比嘉		松林	0
21	(0)	PT	(0)	15

〔審・武田 小越〕

青森商 27 〔11－10 8－9 3－0 5－2〕 21 長浜北（青森）

〔戦評〕両チームとも同じようなチームであり、セットを中心とした点の取り合いが続いた。青森商・高村、長浜・中山を中心に一進一退の攻防となり前半を終了。後半になっても1点を争うゲームとなり延長戦に入る。

延長に入り、青森商が6連続ゴールを速攻中心に決め、3回戦出場を果たした。（小越康雄）

得	〔青森商〕		〔長浜北〕	得
0	工藤	GK	長谷川	0
0	中村		成田	0
0	川畑	FP	中山	6
8	高橋		吉川隆	1
4	斉藤		中川勉	2
0	杉山		田川	1
3	市川		中川良	2
2	山田		清水	0
1	伊藤		岩田	3
9	小鹿		河村	5
0	福士		吉川英	1
0	沢田		山岡	0
27	(4)	PT	(3)	21

〔審・菅野 半田〕

小山南 28 〔13－10 15－5〕 15 釧路湖陵（北海道）

〔戦評〕試合開始よりポスト、サイド、速攻と多彩なプレーで主導権を握る小山南に対し、地元釧路が相手の堅いディフェンスの前でフリースローを狙うが、単調な攻撃のため得点に結びつかず敗退する。

両チームともに最後まで必死にプレーしたことが印象的であった。（半田忠）

	〔釧路〕	得	〔小山南〕	得
GK	武田	0	横尾	0
GK	清水	0	青鹿	0
FP	諏訪	1	武井	7
FP	安藤	1	平野	2
FP	山本	6	関根	4
FP	佐藤	0	吉田	6
FP	手塚	2	坂本	4
FP	斉藤	0	松本	5
FP	大西	0	荒井	0
FP	吉村	0	後藤	0
FP	石川	2	塚田	0
FP	西村	3	平塚	0
PT	(2)	15	(3)	28

（審・島崎 井上）

神埼農（佐賀）23〔13－4 10－11〕15 添上

〔戦評〕両チームとも立ち上がりから活気ある、積極的なプレーでよく走り、よく動き、一進一退のゲーム展開で両チームのGKがよく守るが、徐々に神埼農がサイドのシュート、及びセンターからのジャンプシュートで加点し、リードする。添上も積極的に速いパスワークをし、ディフェンスが弱くなった神埼農に対し、後半点差を縮め、スカイプレーも使い得点するが、あと一歩のところで敗退した。（井上真也）

	〔添上〕	得	〔神埼農〕	得
GK	深瀬	0	西崎	0
GK	川畑	0	金山	0
FP	鈴木	4	片江	2
FP	後藤	3	寺田	2
FP	奥谷	3	大隈	4
FP	東	3	下田	5
FP	小出	2	福田	3
FP	馬場	0	森	6
FP	中川	0	古賀	0
FP	小柳	0	貞包	0
FP	杉本	0	野中	1
FP	大久保	0	中村	0
PT	(1)	15	(1)	23

（審・武田 小越）

富岡 21〔13－9 8－11〕20 湯沢（秋田）

〔戦評〕前半、富岡はエース安藤にマンツーマンをつけられたが、5－5からミドルやカットインを中心とした攻撃から得点を重ね、守っても湯沢の攻撃をよく防ぎ、4点のリードを奪った。しかし、後半中ばから湯沢はマンツーマンをはずし、一線防衛にした。すると、富岡の攻撃リズムが狂い始めた。また、攻めても坂本のフェイントを中心にしてよく追い上げたが、今一歩届かなかった。（清水宣雄）

	〔湯沢〕	得	〔富岡〕	得
GK	近	0	棚橋	0
GK	下嶋	0	大塚	0
FP	菅	4	今泉	0
FP	赤平	6	安藤	7
FP	八十田	3	吉田	6
FP	井上	1	渡辺	1
FP	山岸	0	白石	0
FP	鶴田	0	勅使河原	5
FP	坂本	4	加部	1
FP	高山敦	0	市川	1
FP	高山康	2	佐々木	0
FP	小松	0	岩田	0
PT	(0)	20	(0)	21

（審・武田 田中）

高岡向陵（富山）29〔12－17 17－10〕27 市西宮東

〔戦評〕前半の始め両チームとも大型チームらしくロングシュート、ポスト、速攻で互角であったが、中盤から後半にかけて西宮東・広瀬の活躍により点差を広げた。しかし後半に入り、高岡向陵は椎山、藤井などの活躍により逆転勝ちした。（北山隆）

	〔西宮東〕	得	〔高岡〕	得
GK	窪田	0	堀川	0
GK	森川	0	藤井宏	0
FP	広瀬	10	椎山	2
FP	栗原	0	藤井孝	8
FP	野田	6	塩井	0
FP	藤本	2	山崎	5
FP	秋吉	2	関谷	4
FP	永井	3	谷田	3
FP	村上	0	吉田	7
FP	川内	4	矢後	0
FP	黒木	0	藤坂	0
FP	清水	0	松本	0
PT	(2)	27	(0)	29

（審・岡本 清水）

熊本市商 41〔22－10 19－12〕22 三好農林（徳島）

〔戦評〕前半からスピードに乗った攻撃で熊本市商がリード。その後も熊本は固い守りから速攻で着々と加点。一方三好農林は、セットオフェンスからなかなか得点できず、速攻も思うように出せない。後半終了間際、三好農林も最後の粘りを見せたが、点差は詰まらなかった。（棚橋伸男）

	〔三好〕	得	〔熊本〕	得
GK	楠	0	宮本憲	0
GK	山田	0	増永	0
FP	小西	3	樋口	7
FP	岩佐	6	阿萬	4
FP	藤原	4	中村	2
FP	新居	6	改田	5
FP	岡	0	浦塘	7
FP	久保	3	鶴田	12
FP	松岡	0	岩本	2
FP	藤村	0	宮本玲	0
FP	池田	0	赤星	1
FP	橋本	0	内田	1
PT	(0)	22	(2)	41

（審・増田 田村）

横浜商工（神奈川）40〔22－5 18－9〕14 境

〔戦評〕横浜商工・田中、小沢のジャンプシュートなどで3点連取したのに対し、境もハーフ速攻で頑張ったが、5分過ぎからディフェンスの良い横浜商工が自由自在に得点し、前半を終了。後半、境も板倉を中心に頑張るが、走力に勝る横浜商工が最後まで走り得点差をつけた。（田村登）

	〔境〕	得	〔横浜〕	得
GK	樋口	0	金子	0
GK	松田	0	原田	0
FP	小林	0	小松	4
FP	花井	1	田中	9
FP	柏木	2	鈴木	1
FP	板倉	6	小川	13
FP	松本	1	小林	2
FP	高野	1	今田	1
FP	平岡	2	荻窪	2
FP	恩重	0	寺尾	0
FP	榧野	0	小沢	2
FP	池淵	1	松沢	6
PT	(0)	14	(3)	40

（審・錦織 棚橋）

3回戦

久留米工大付 21〔9－9／12－10〕**18 三島**

〔戦評〕三島は伊勢坊を中心に粘りのあるプレーを見せ、立ち上がり先行するが、眠けからさめた久留米工大付もバネのあるシュートで追いつき、シーソーゲームを展開、ほぼ互角で前半を終える。このあたりの試合に出てくるチームになると、さすがに巧いGKを持っている。双方とも再三のピンチをカバーしていた。後半より、徐々に久留米がリード、追いすがる三島をわずかに引き離した。久留米の総合的で平均的なバネの強さの勝利であろう。（星保信）

〔三島〕	得		〔久工大附〕	得
福島	0	GK	篠崎	0
岸本	0	GK	久保田仁	0
山田	5	FP	中山	5
白井	2	FP	平野	0
有田	2	FP	東島	3
伊勢坊	3	FP	杉元	0
小坂	2	FP	久保田圭	6
鳥平	4	FP	後藤	5
井上	0	FP	安永	0
伊東	0	FP	井上	2
上田	0	FP	石丸	0
福本	0	FP	志田	0
(0)	18	PT	(2)	21

〔審・武田 田中〕

長崎日大 27〔13－12／14－13〕**25 桜台**

〔戦評〕両チームともすばやいパスワークからのカットイン、ミドルシュートと持ち味を生かした息詰まる展開となり、前半は長崎日大が13－12と1点のリードにて終了、後半は、速攻、半速攻を中心とした展開となり、一度は桜台も逆転したが、チーム全員の総合力で最後は長崎日大が勝利を収めた。終始目の離せない息づまり熱戦であった。（伊藤靖）

〔桜台〕	得		〔長崎日大〕	得
岩佐	0	GK	増見	0
阪野	0	GK	牧山	0
山田	7	FP	松本	3
内田	5	FP	森	5
鈴村	8	FP	井手邦	1
鎌田	3	FP	井手創	6
榎本	1	FP	稲佐	3
鳥本	1	FP	濱口	5
山上	0	FP	山本	0
服部	0	FP	井上	3
斉藤	0	FP	大津	1
鬼頭	0	FP	小柳	0
(3)	25	PT	(1)	27

〔審・岡本 清水〕

日大明誠 20〔13－4／7－6〕**10 函館有斗**

〔戦評〕両チームともディフェンスの早いチェックで得点に結びつける事ができず、わずかに日大明誠の速攻が上回り、また函館有斗の攻撃が得点に結びつかず差が広がって前半を終る。後半に入り、有斗のディフェンスが動くようになり、日大明誠の得点が止まり、有斗の反撃が期待されたが、明誠GKの好守にあい得点が伸びず、シュート力の差が点差となって表れた試合であった。（浅野喜圀）

〔有斗〕	得		〔日大明誠〕	得
佐藤	0	GK	柳沢	0
松	0	GK	篠原	0
建部	1	FP	福井	0
久保	1	FP	鮎沢	3
高橋	2	FP	竹林	4
宇美	0	FP	若月	1
伊藤	1	FP	会田	3
紅谷	0	FP	荒井	4
駒野	3	FP	川西	0
寺嶋	2	FP	西野	5
三橋	0	FP	金子	0
岩崎	0	FP	井上	0
(0)	10	PT	(0)	20

〔審・増田 田村〕

明星 31〔15－6／16－13〕**19 下松工**

〔戦評〕ロングとポスト狙いの下松に対し、カットイン、サイドプレーの明星の戦いとなったが、明星は厚いディフェンスで下松工のシュートをよく防ぎ、速攻につなげ、前半を15－6とリードする。後半に入り、下松工のロング、ポストが決まり出し互角に戦うが、前半の9点差が最後まで詰まらずそのまま明星が逃げ切った。（清水勝）

〔下松工〕	得		〔明星〕	得
岡	0	GK	神田	0
黒川	0	GK	守随	0
湯浅	5	FP	布田	6
溝渕	1	FP	清水	9
藤井	7	FP	萩原	8
湊	2	FP	酒井	0
御厨	2	FP	三浦	1
三奈木	2	FP	倉持	2
上野	0	FP	種茂	0
小川	0	FP	井出	0
南	0	FP	前田	0
浅本	0	FP	玉島	5
(1)	19	PT	(3)	31

〔審・斉藤 千野〕

興南 24〔12－4／12－8〕**12 青森商**

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームともにミスが多く雑な攻撃が続き、7分、興南がポストプレーから先取点をあげたが、その後も共に決め手を欠く。しかし、15分過ぎぐらいから焦りの目立つ青森商に対し、カウンター攻撃から主導権を握った興南がじりじりと点差を広げる。青森商はミスが多く、チャンスを得点に結びつけられず苦しいゲーム展開で前半を終了する。後半も興南が速攻から得点を着実に積み重ね、一方的なペースですすめる。青森商は力を発揮できずに終る。（増田学）

得	〔興南〕		〔青森商〕	得
0	我謝	GK	工藤	0
		GK	中村	0
1	宮城	FP	川畑	1
3	金城	FP	高村	3
0	上原徳	FP	斉藤	2
0	具志堅	FP	杉山	0
3	吉浜	FP	市川	0
3	上原尚	FP	山田	2
5	嶺井	FP	伊藤	1
7	又吉	FP	小鹿	3
2	比嘉	FP	福士	0
0	當間	FP	沢田	0
24	(1)	PT	(3)	12

（審・倉本・佐藤）

小山南 21 〔10−7 11−11〕 18 神埼農

〔戦評〕神埼農・福岡のハーフ速攻と森のジャンプシュートから始まったのに対し、小山南も関根などのシュートで対応、セット力に勝る小山南がリードしたが、終了間際神埼農も盛り返し、同点で前半を終了。後半5分、神埼農退場の間に小山南が3得点し、その後一進一退が続いたが、神埼農退場の間の失点が痛く、その差が勝敗を左右したゲームであった。（田村登）

得	〔小山南〕		〔神埼農〕	得
0	横尾	GK	西岡	0
0	青鹿	GK	金山	0
2	武井	FP	片江	2
3	平野	FP	寺田	0
7	関根	FP	大隈	2
7	吉田	FP	下田	4
1	坂本	FP	福田	3
1	松本	FP	森	7
0	荒井	FP	古賀	0
0	後藤	FP	貞包	0
0	塚田	FP	野中	0
0	平塚	FP	中村	0
21	(1)	PT	(1)	18

（審・浅野・清水）

高岡向陵 23 〔11−10 12−11〕 21 富岡

〔戦評〕前半、高岡向陵のロングシュートからゲームが流れるが、セット攻撃主体の攻防となる。高岡が先行するが、富岡も安藤を中心にロング、ポストで着実に加点し、前半は12−11で終る。後半に入って、富岡が退場者が出て不利な中、ローリングからロングシュートと足を使って、一気にリズムに乗って攻撃する。残り7分再度同点となるが、後半、富岡・安藤が激しいマンツーマン・ディフェンスに合って攻撃ができないままゲームが終了する。（田中勇）

得	〔高岡〕		〔富岡〕	得
0	堀川	GK	棚橋	0
0	藤井宏	GK	大塚	0
1	椎山	FP	今泉	0
7	藤井孝	FP	安藤	6
0	塩井	FP	吉田	3
3	山崎	FP	渡辺	4
3	関谷	FP	白石	0
7	谷田	FP	勅使河原	7
2	吉田聡	FP	加部	1
0	矢後	FP	市川	0
0	吉田俊	FP	佐々木	0
0	藤坂	FP	岩田	0
23	(4)	PT	(1)	21

（審・北山・浜野）

熊本市商 26 〔15−10 11−14〕 24 横浜商工

〔戦評〕横浜商工・小川のシュートでスタートし、熊本商・中村の頑張りが目立ったが、並ぶことができず前半11−14で終了。後半に入り、5分までに熊本商GK宮本の得点もあり同点に。その後、熊本・中村の退場中に3点離されたが、横浜・小川へのマンツーマンが巧を奏し、攻撃のリズムが狂い加点できなくなった。一方熊本は速攻やミドルと多くの攻撃で逆転し、2点差で逃げ切った。（武田節夫）

得	〔熊本〕		〔横浜〕	得
1	宮本憲	GK	金子	0
0	増永	GK	原田	0
3	樋口	FP	小松	5
4	阿萬	FP	田中	5
8	中村	FP	鈴木	0
3	改田	FP	小川	3
3	浦塘	FP	小林	0
4	鶴田	FP	今田	0
0	岩本	FP	荻窪	4
0	宮本玲	FP	寺尾	0
0	赤星	FP	小沢	5
0	門口	FP	松沢	2
26	(1)	PT	(4)	24

（審・高野・中島）

準々決勝

久留米工大付 38 〔20−10 18−3〕 13 長崎日大

〔戦評〕久留米工大付属の高いディフェンスの壁に長崎日大は攻めあぐみ苦戦する。シュートを工夫するがカットされ、速攻で加点され前半18−3で終了する。後半、長崎日大は必死に攻撃の糸口をつかもうとするが、最後まで久留米の高いディフェンスを破ることができなかった。（小越康雄）

得	〔久工大附〕		〔長崎日大〕	得
0	篠崎	GK	増見	0
0	久保田仁	GK	牧山	0
3	中山	FP	松本	1
2	平野	FP	森	1
5	東島	FP	井手邦	4
0	杉元	FP	井手創	4
2	久保田圭	FP	稲佐	1
14	後藤	FP	濱口	0
1	安永	FP	山本	1
6	井上	FP	井上	1
3	石丸	FP	大津	2
2	志田	FP	小柳	0
38	(2)	PT	(1)	15

（審・島田・後藤）

明星 24 〔11−13 13−6〕 19 日大明誠

〔戦評〕立ち上がりミスの多い日大明誠に対し、明星はキャプテン布田が色々な角度から確実に決め、他がそれに巧く乗じて10分で9−2。その後お互いにミスが多く、残り2分日大明誠が連続ゴールで追うが13−6で前半終了、後半立ち上がり、打ち合いの展開で10分19−11。その後、お互い単調な攻めになり、日大明誠も追うが、前半の失点が大きく、24−19で明星が勝つ。（山辺文彰）

得	〔明星〕		〔日大明誠〕	得
0	神田	GK	柳沢	0
0	守随	GK	篠原	0
10	布田	FP	福井	0
5	清水	FP	鮎沢	3
2	萩原	FP	竹林	5
0	酒井	FP	若月	1
3	三浦	FP	会田	6
0	倉持	FP	荒井	3
0	種茂	FP	川西	0
0	井出	FP	西野	1
0	前田	FP	金子	0
4	五島	FP	井上	0
24	(4)	PT	(1)	19

（審・菅野・計田）

興南 31 〔12−10 19−16〕 26 小山南

〔戦評〕前半、小山南、興南ともに積極的なプレーを見せ、一進一退の攻防が続いた。走りに勝る興南が3点リードして前半を終了する。後半に入っても1点を争う好ゲームが続いたが、残り5分、興南がよくボールを回し、確実にノーマークシュートを決め準決勝へ進んだ。（半田忠）

得	〔興南〕		〔小山南〕	得
0	我謝	GK	横尾	0
		GK	青鹿	0
3	宮城	FP	武井	2
1	金城	FP	平野	1
1	上原徳	FP	関根	9
0	具志堅	FP	吉田	6
1	吉浜	FP	坂本	3
7	上原尚	FP	松本	5
8	嶺井	FP	荒井	0
7	又吉	FP	後藤	0
3	比嘉勉	FP	塚田	0
0	比嘉直	FP	平塚	0
31	(0)	PT	(0)	26

〔審・山辺 林〕

熊本市商 31 〔10－13 / 21－10〕 23 高岡向陵

〔戦評〕熊本市商は、前半高岡向陵のミスを速攻につなぎ、全員がよく走り確実に得点した。高岡向陵も藤井のロングを中心に積極的に攻めるが、熊本のディフェンスの早い詰めとGK宮本の好守にあいなかなか得点につながらない。後半、高岡も必死の食い下がりを見せるが、あと一歩のところで涙をた飲んだ。（林俊夫）

得	〔熊本〕		〔高岡〕	得
0	宮本憲	GK	堀川	0
0	増永	GK	藤井宏	0
5	樋口	FP	椎山	0
5	阿萬	FP	藤井孝	9
2	中村	FP	塩井	3
3	改田	FP	山崎	1
5	浦塘	FP	関谷	3
10	鶴田	FP	谷田	5
0	岩本	FP	吉田聡	2
1	宮本玲	FP	矢後	0
0	赤星	FP	吉田伊	0
0	内田	FP	藤坂	0
31	(2)	PT	(3)	23

〔審・井島 上崎〕

準決勝

久留米工大付 21 〔11－9 / 10－10〕 19 明星

〔戦評〕前半、久留米のシュートミスとディフェンスの甘さをつき、明星がたて続けにサイド、ポストと4点をリードした。明星は布田がマークされたが、他のプレーヤーの活躍が目立った。しかし、残り2分で久留米は速攻、ロング、ポストと多彩な攻撃により同点に追いついた。後半は久留米が常にリードし、明星も必死に14分まで追いつくが、残り10分過ぎからは地力に勝る久留米が明星を振り切った。（菅野肇）

得	〔久工大附〕		〔明星〕	得
0	篠崎	GK	神田	0
0	久保田仁	GK	守随	0
3	中山	FP	布田	6
0	平野	FP	清水	9
3	東島	FP	萩原	1
3	杉元	FP	酒井	0
3	久保田圭	FP	三浦	1
6	後藤	FP	倉持	1
0	安永	FP	種茂	0
3	井上	FP	井出	0
0	石丸	FP	前田	0
0	志田	FP	五島	1
21	(0)	PT	(2)	19

〔審・井島 上崎〕

熊本市商 29 〔16－13 / 13－7〕 20 興南

〔戦評〕九州同士の対決は、大変スピーディーなゲーム展開となった。熊本市商は、興南の又吉にははじめからマンツーマンでマーク。興南はなかなかリズムに乗れず、無理な態勢からシュートを打つ、場面が多くなった。熊本は、相手のシュートミスを樋口、浦塘らが次々と速攻につないで前半をリードした。後半になってもその流れは変わらず、シュートの確率に勝る熊本の快勝となった。興南は、GK我謝の再三の好守を生かすことができなかった。（倉本紘一）

得	〔熊本〕		〔興南〕	得
0	宮本憲	GK	我謝	0
0	増永	GK		
5	樋口	FP	宮城	2
2	阿萬	FP	金城	1
1	中村	FP	上原徳	0
0	改田	FP	具志堅	0
11	浦塘	FP	吉浜	6
7	鶴田	FP	上原尚	3
2	岩本	FP	嶺井	5
0	宮本玲	FP	又吉	2
0	赤星	FP	比嘉	1
1	門口	FP	當間	0
29	(2)	PT	(1)	20

〔審・清岡 水本〕

決勝

久留米工大付 29 〔15－10 / 14－9〕 19 熊本市商

〔戦評〕九州勢同士となった決勝戦は、両チーム、ロング、速攻とポストを駆使して互角の立ち上がりとなったが、熊本市商は浦塘が10分負傷退場してから攻撃のリズムが狂い離されかけた。しかしよく粘り、22分に9－10と追い上げた。久留米工大付は、残り3分、井上がよく走り3連続得点をあげるなどで14－9と突き放した。

後半も総合力で勝る久留米は、多彩な攻撃を展開して得点を重ね勝利をものにした。敗れたとはいえ熊本市商の健闘も讃えたい。

（倉本紘一）

得	〔久工大附〕		〔熊本〕	得
0	篠崎	GK	宮本憲	0
0	久保田仁	GK	増永	0
7	中山	FP	樋口	4
0	平野	FP	阿萬	3
2	東島	FP	中村	1
1	杉元	FP	改田	2
5	久保田圭	FP	浦塘	6
8	後藤	FP	鶴田	3
1	安永	FP	岩本	0
5	井上	FP	宮本玲	0
0	石丸	FP	赤星	0
0	近藤	FP	内田	0
29	(3)	PT	(1)	19

〔審・島後 田藤〕

女子

佼成学園女が念願の初優勝

1回戦

盛岡二（岩手）21 （6－6　8－8　3－0　4－0） 14 **富岡東**（徳島）

〔戦評〕前半、両チームともにミスの多いゲームが展開される。富岡東ペースで流れるが、展開がポストに集中しすぎ、盛岡第二がパスカットから速攻へとつなぎ、勝負は後半戦へもつれ込む、後半は富岡東が速攻で先行する。両チームともよく走りスピーディな展開となり1点を争う試合。後半ノータイムと同時に打った盛岡二・北村のシュートがネットにつきささり延長戦へ入る。延長戦に入って、盛岡二が一方的に走り試合を決定する。（田中勇）

得	〔盛岡二〕		〔富岡東〕	得
0	島田	GK	辻	0
7	笹岡		数藤	0
2	熊谷	FP	生田	3
1	片岸		真崎	2
8	高橋	（審・岡本 清水）	布川	0
3	沢田		藤田	0
1	村井		福田	0
6	北村		板東	2
0	菅原		湯村	0
0	畠山		米田	2
0	中谷		澤田	1
0	常川		笹谷	4
21	(0)	PT	(1)	14

向陽（京都）31 （20－6　11－5） 11 **境**（鳥取）

〔戦評〕上田のロングを中心とした向陽の攻撃は、境のディフェンスを簡単に突破した。一方、境は向陽の高い、引いたディフェンスを攻めあぐみ、不意をついたシュートとサイド、速攻に勝負を見出そうとするが、GK西村の好守に阻まれ、得点をあげることができなかった。向陽が地力を発輝し完勝した。（清水宣雄）

得	〔向陽〕		〔境〕	得
0	西村	GK	安倍	0
0	梅景		徳永	4
10	上田	FP	瀬島	0
2	新村		浜田	0
2	盛山	（審・増田 田村）	上灘	5
8	大槻		根平	0
4	岸		奥野	2
1	井上		菅原	0
1	藤原		新田	0
3	鳥越		中西	0
0	長谷		南	0
0	奥村			
31	(4)	PT	(1)	11

青森西（青森）25 （12－4　13－2） 6 **添上**（奈良）

〔戦評〕添上のスローオフで試合が始まり、開始2分青森西が先制。中盤添上は、青森西の固いディフェンスを破ることができず、逆にシュートミスからの速い攻撃が決まり、青森西が大差で前半を終る。後半、両校小さなミスが多く攻めあぐんだが、添上が追い詰めることができず、結局前半の大量点を青森西が初戦をものにした。（錦織進）

得	〔青森西〕		〔添上〕	得
0	肴倉	GK	米村	0
0	杉山		開田	0
8	貴田	FP	徳田	0
2	藤川		松村	0
6	小林	（審・島崎 井上）	吉田	0
7	山本		橋崎	6
0	荒内		檜垣	0
0	川村		掛本	0
0	倉内		板垣	0
1	福士		柗池	0
1	成田		辰己	0
0	小田		嶋田	0
25	(3)	PT	(1)	6

大分雄城台（大分）13 （6－1　7－6） 7 **松江市女**（島根）

〔戦評〕両チームとも最初ボールが手につかない状態で攻めあぐみつつ、雄城台が走り込んで得点しリードする。後半徐々に松江市女もがんばるが、パスミス、シュートミスが多く敗退。雄城台のディフェンスが良く攻撃に結びついた。（井上真也）

得	〔雄城台〕		〔松江女〕	得
0	福岡	GK	佐野	0
0	薬師寺		売豆紀	0
1	中野	FP	広江	2
0	糸園		佐藤	2
1	甲斐	（審・高野 中島）	金沢	2
4	梶原		三島	0
2	菅		宅和	0
5	小澤		山根	1
0	河上		坂浦	0
0	江藤		荒川	0
			松本	0
			荒木	0
13	(0)	PT	(1)	7

具志川（沖縄）28 （17－6　11－8） 14 **松山北**（愛媛）

〔戦評〕具志川は、立ち上がりポイントゲッターである比嘉が基礎になる得点で2点をとり、チームワークのムードを高めて得点を積み重ねた。一方の松山北は、前半5分に具志川の比嘉をマンツーマンでつける戦法にきりかえ、5人での攻防戦になったが具志川の走りにはついて行けなかった（高野尚之）

得	〔具志川〕		〔松山北〕	得
0	真喜志	GK	芝	0
0	金城		横林	0
2	兼城	FP	高田	3
0	比嘉真		河野	0
1	照屋	（審・錦織 棚橋）	河本	2
4	田場		渡部	2
1	比屋根		泉田	1
1	比嘉晴		新田	6
1	又吉		萩山	0
8	儀保		藤田	0
1	金城		和田	0
1	小橋		中崎	0
28	(0)	PT	(2)	14

小松商（石川）24 （13－5　11－9） 14 **郡山女**（福島）

〔戦評〕前半は両チームともよく走り一進一退のシーソーゲーム。後半立ち上がり、小松商は相手ミスを見逃さず加点、リードを広げ始める。郡山女はサウスポー柳内を軸に必死に追い上げるも、地力に優る小松の固いディフェンスGKを突破できず、セーフティーリードを許し逃げ切られた。

得	〔小松商〕		〔郡山女〕	得
0	東方	GK	鈴木	0
0	馬場		柳沼	0
0	宮崎	FP	柳内	0
1	鈴木		影山	0
2	松下	（審・島崎 井上）	吉田	0
3	宮本		橋本	5
0	坂井		伴野	1
0	吉田		青池	1
10	森		渡辺	1
4	石村		山城	0
3	谷下		管野	0
1	高田		七見	0
24	(3)	PT	(1)	14

県岐阜商（岐阜）15 （7－9　8－2） 11 **純心女**（鹿児島）

〔戦評〕両チームとも、早いパスワークからポスト、サイドにボールを集め得点を重ね、前半鹿児島やや優勢で終了した。後半に入り

得	〔岐阜商〕		〔純心女〕	得
0	石原	GK	南	0
0	川島		坂上	0
3	徳永	FP	岩下	2
4	馬場		飛松	1
4	松野	（審・大河原 小林）	上栗	2
4	吉井		石神	4
0	浅野		鮫島	0
0	小椋		上野	2
0	川瀬		鶴田	0
0	鬼頭		森香	0
0	村田		梶原	0
0	新井		芦原	0
15	(3)	PT	(2)	11

県岐阜商も立ち上がり連続得点し同点とした。その後一進一退が続いたが、シュートが単調になった鹿児島にくらべ県岐阜商は、粘り強くボールをキープし確実に得点した。（北山隆）

彦根商（滋賀）16〔6−6 10−6〕12 **山陽女**（広島）

〔戦評〕前半立ち上がり、PTなどで彦根商が優位であったが、山陽女が長久の投入からリズムが出て大山のロングなどでリード、しかし彦根商も石田のロングなどで応戦、一進一退のゲーム展開となる。後半4分、山陽女・上田の退場から彦根商が速攻、両サイドシュートで波に乗り、GK川幡の好守、山陽女のシュートミスもあり着々と加点し、中盤すぎの5点リードを守りきった。敗れたが、山陽女・長久の健闘が目立った。（大河原浩気）

得	〔彦根商〕		〔山陽女〕	得
0	川幡	GK	森貞	0
0	圓城	GK	久保	0
1	森	FP	上田	0
3	石田	FP	九十九	0
8	木村	FP	山本	2
2	鋒山	FP	長久	7
1	藤居	FP	大山	3
0	矢野	FP	本田	0
0	山田	FP	玉崎	0
0	嶋佐	FP	木下	0
0	越智	FP	山中	0
1	間柴	FP	土師	0
16	(4)	PT	(3)	12

（審・北山 浜野）

夙川学院（兵庫）18〔8−6 10−9〕15 **新潟江南**（新潟）

〔戦評〕試合は前半、セットでセンターのずらしからサイド攻撃をねらう夙川と、詰めの良いディフェンスからカウンターアタックをねらう江南の互角の展開となり、8対6夙川リードで終了した。しかし、後半になると夙川が持ち前の足を生かし速攻で徐々にリードし、差を開いていった。江南も必死に追いすがったが、健闘及ばず敗れ去った。江南は再々のPTをはずしたのが惜しまれる。（岡本研二）

得	〔夙川〕		〔江南〕	得
0	重森	GK	高橋	0
0	松田	GK	永井	0
5	西村	FP	武田	0
3	小沼	FP	古泉	5
0	高橋	FP	結城	0
0	江崎	FP	伊藤	2
0	西口	FP	加藤	2
7	上野朝	FP	五十嵐	1
1	上野知	FP	阿部	3
1	伊藤	FP	遠藤	0
1	大林	FP	源川	2
0	大矢	FP	宇田	0
18	(2)	PT	(0)	15

（審・増田 田村）

岩国商（山口）20〔8−9 9−8 1−1 2−0〕18 **静岡城北**（静岡）

〔戦評〕前半開始2分、静岡城北は石上のステップシュートから先取点するが、岩国商も上村のジャンプシュートで譲らず、5分過ぎから動きが活発となり、両チームのGKの好守もあり、一進一退の攻防が続き互角の展開となる。思いきりのよいロングシュートの打ち合い、ダブルポストプレーを生かしての攻め合いと見ごたえのあるゲームとなる。後半も同様の展開から緊迫した攻防が続き延長戦に入る。延長戦後半、静岡城北の一瞬のすきをついての石村のジャンプシュートからの得点で岩国商が勝利する。好ゲームであった。（増田学）

得	〔岩国商〕		〔城北〕	得
0	高林	GK	石垣	0
0	河原	GK	望月	0
1	吉田	FP	大原	3
10	石村	FP	大津	4
1	上村	FP	石上	2
3	香井	FP	小俣	6
0	芦村	FP	桑原	3
1	室重	FP	鈴木	0
4	藤村	FP	森島	0
0	清水	FP	田代	0
0	近藤	FP	北村	0
0	徳本	FP	野仲	0
20	(0)	PT	(0)	18

（審・田中 武田）

四天王寺（大阪）33〔19−5 14−3〕 **中村**（高知）

〔戦評〕実力差があまりにもあるゲーム内容であった。四天王寺が開始34秒でPTで1点、その後は着実に加点した。中村の攻めは単調で、また、四天王寺の固いディフェンスに阻まれ横走りが多く得点に結びつかず、パスミスも多く四天王寺はミスをすべて速攻につなげ加点した。後半も同じ展開であった。中村のもう少しの走りを期待したい。（小林斂）

得	〔四天王寺〕		〔中村〕	得
0	清水	GK	山本	0
0	水口	GK	小橋	0
1	田中	FP	山下	0
1	橋本	FP	河野	0
1	蓮本	FP	山崎	3
1	久保	FP	岡本	1
1	井上	FP	山中	0
0	留河	FP	土合	1
0	中西	FP	原本	3
5	西村	FP	福本	0
13	八木	FP		
10	堀畑	FP		
33	(2)	PT	(0)	8

（審・北山 浜野）

大曲農（秋田）30〔17−6 13−11〕17 **神埼農**（佐賀）

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームのGKの好守で大変盛り上がった展開になるが、神埼は大曲の高いディフェンスをくずすことが出来ず、また、大曲のGKの好守により徐々に点差が開く。後半も前半同様の展開になるが、神埼の高校生らしい好ファイトは点差を感じさせず大変好感がもてた良いゲームであった。（浜野修）

得	〔大曲農〕		〔神埼農〕	得
0	鈴木	GK	宮島	0
0	草彅	GK	江頭	0
2	後藤	FP	八谷	2
8	小松晃	FP	小柳	1
1	今野	FP	宮地早	1
3	小友	FP	執行	4
2	佐藤由	FP	園田	8
0	佐々木	FP	小川	1
0	藤井	FP	久保山	0
0	佐藤薫	FP	吉村	0
8	小松紀	FP	宮地嘉	0
6	長沢	FP	馬場	0
30	(0)	PT	(4)	17

（審・大河原 小林）

栃木女（栃木）21〔11−7 10−6〕13 **西大寺**（岡山）

〔戦評〕前半は両チームともにボールが手につかず雑なシュートが多かったが、栃木女・堤がマンツーされると高林が活躍し着実に加点した。一方西大寺は、攻撃の巾が狭く無理なシュートを打ったりして、逆速攻をかけられたりして攻撃力のある栃木女の前に敗れた。（島崎政治）

得	〔栃木女〕		〔西大寺〕	得
0	老沼	GK	奥山	0
0	山下	GK	田中	0
1	黒崎	FP	末利	0
0	磯部	FP	太田	2
2	池嶋	FP	小田	0
6	堤	FP	坂本	0
0	山士家	FP	岩角	5
0	岸	FP	秋山	0
0	和気	FP	岡崎	2
10	高森	FP	河本	1
2	落合	FP	谷口	1
0	荒川	FP	八代	1
21	(0)	PT	(2)	13

（審・高野・中島）

有磯（富山） 26 {12－4, 14－7} 11 **日大山形**（山形）

〔戦評〕有磯はセット攻撃、サイドシュート、速攻、ペナルティで着々得点を加えるが、日大山形は攻撃が単調で有磯のディフェンスをくずすことができず、前半有磯7点リードで終る。後半は有磯は相手のシュートミス、パスミス等から速攻、サイドシュートで点を入れ一方的にリードしてゲームを終る。（中島寿美）

得	〔有磯〕		〔日大山形〕	得
0	坂	GK	井沢	0
0	余川	GK	後藤	0
1	大石	FP	石川	6
11	海ヶ倉	FP	本田	1
0	山崎	FP	小高	2
5	目代	FP	羽田	1
2	谷内	FP	小坂	1
6	中川	FP	井田	0
0	町口	FP	宇野	0
1	井上	FP	佐竹	0
0	国多美	FP	吉田	0
0	国多な	FP	武田	0
26	(6)	PT	(1)	11

（審・錦織・棚橋）

聖和学園（宮城） 21 {10－8, 11－5} 13 **佐久**（長野）

〔戦評〕前半中盤まで佐久GK小須田の健闘によりシーソーゲームを展開していたが、スピードに勝る聖和が2点リードで前半を終了する。後半、佐久の足が止まり一方的な聖和の展開で終了した。（武田節夫）

得	〔聖和〕		〔佐久〕	得
0	今野	GK	小須田ゆ	0
0	伊藤	GK	小池	0
2	鈴木	FP	戸塚	4
4	菅井	FP	北沢	7
4	遠藤真	FP	藤巻	2
1	大槻	FP	小須田か	0
7	田島	FP	竹内	0
2	片倉	FP	大井	0
0	芳田	FP	土屋	0
0	遠藤康	FP		
0	広野	FP		
1	佐藤	FP		
21	(4)	PT	(0)	13

（審・岡本・清水）

有馬（神奈川） 25 {14－7, 11－5} 12 **高松商**（香川）

〔戦評〕開始早々お互いに走力で速攻を出すが決まらず、3分有馬のPT、高松藤沢のジャンプシュートから始まってからお互いに元気のいいプレーが続き点の取り合いになった10分過ぎ、有馬の速攻ハーフ速攻で連続得点し14対7で前半終了、後半土谷のジャンプシュートで始まってから有馬のペースになり、連続6点取るなどして完勝であったが、負けた高松商もよくきたえられた好チームであった。（田村登）

得	〔有馬〕		〔高松商〕	得
0	大塚	GK	天野	0
0	座本	GK	木村	0
4	加古川	FP	中澤	0
5	土谷	FP	実川	0
3	柳原	FP	末包	2
10	磯野	FP	細谷	1
1	上島	FP	小川	4
0	新井	FP	小田	1
1	大附	FP	宇野	0
1	梅沢	FP	藤澤	3
0	池谷	FP	楠	0
0	坂本	FP	多田	1
25	(1)	PT	(0)	12

（審・武田・田中）

2回戦

昭和学院（千葉） 21 {11－5, 10－6} 11 **盛岡第二**

〔戦評〕試合開始30秒で昭和学院が先取点を取り、以後ディフェンス前での早いボール廻しからポストシュート、カットインで着実に加点し、昭和学院ペースで進んだ。一方の盛岡第二も必死の攻撃をするも得意のロングシュートが決まらず、ポストプレーに切り換えても昭和の厚いディフェンスに苦戦する。

後半も同じような展開で進んだが、ラスト8分前位に盛岡第二の反撃が功を奏し一時は5点差まで追い上げたが、昭和学院も必死の頑張りを見せ力で押し切った。（矢澤達司）

得	〔昭和〕		〔盛岡二〕	得
0	石田	GK	島田	0
		GK	笹岡	0
4	熱田	FP	熊谷	0
0	高橋三	FP	片岸	1
3	伊原	FP	高橋	1
11	座間	FP	沢田	3
3	田村	FP	村井	1
0	井口	FP	北村	5
0	竹田	FP	菅原	0
0	高橋優	FP	畠山	0
0	山崎	FP	中谷	0
0	斉藤	FP	常川	0
21	(1)	PT	(2)	11

（審・山辺・林）

熊本女子商（熊本） 23 {13－6, 10－6} 12 **向陽**

〔戦評〕熊本女子商は、小気味良い走り、パスワークから酒井を中心に攻撃する。一方の向陽も上田、岸のジャンプシュートで反撃するが、3連続速攻を決められ13対6で前半を終了する。後半に入っても熊本女子商は、脚力を生かし着実に加点する。向陽も走り、頑張りを見せたのだが及ばなかった。（林俊夫）

得	〔熊本女〕		〔向陽〕	得
0	平田	GK	西村	0
0	城下	GK	梅景	0
3	久保田	FP	上田	4
5	松井	FP	新村	0
9	酒井	FP	盛山	2
3	河野	FP	大槻	2
1	内田	FP	岸	4
1	高洲	FP	井上	0
0	塩井	FP	藤原	0
0	野角	FP	鳥越	0
0	中川	FP	白井	0
1	栗林	FP	馬場	0
23	(1)	PT	(1)	12

（審・矢澤・横瀬）

青森西 18 {9－5, 9－11} 16 **函館女子商**（北海道）

〔戦評〕青森西は、函館女商のフォーメーションを読み函館のエース高崎のロングを完全に押さえ得点を与えなかった。逆に青森はエース貴田のロングが決まり連続して5点をあげリードする。タイムアウト後函館の動きが変わりフリースローからのフォーメーションが決まりだし、米田、渡辺らが得点をあげ後半19分で同点に追いついたが、青森西のディフェンスの頑張りで速攻が得点になりからくも逃げ切った。（島田房二）

得	〔青森西〕		〔函館女〕	得
0	肴倉	GK	笹治	0
0	杉山	GK	加藤	0
12	貴田	FP	高崎	2
2	藤川	FP	米田	5
1	小林	FP	冨田	1
2	山本	FP	橋本	0
0	荒内	FP	金澤	0
0	川村	FP	渡辺	3
0	倉内	FP	佐藤英	0
1	福士	FP	原田	0
0	成田	FP	佐藤千	0
0	小田	FP	浜口	2
18	(1)	PT	(4)	16

（審・高野・中島）

水海道第二（茨城） 11 {4－6, 5－3, 1－0, 1－0} 9 **大分雄城台**

〔戦評〕両チームともセット攻撃が主体で水海道はよくボールをまわし始め、ポスト、カットインなどで得点を入れる。一方雄城台は、梶原のロングシート、中野のポストシュートなどで得点を入れ前半2点リードで終る。後半水海道は、6分速攻で同点においつき、その後互いにカットイン、ペナルティ、速攻などで一進一退のゲームを展開、18分からお互いによく守り得

得	〔水海道二〕		〔雄城台〕	得
0	小松崎	GK	福岡	0
0	冨山	GK	薬師寺	0
4	古谷	FP	中野	1
1	三輪	FP	糸園	0
3	若林	FP	甲斐	1
0	森井	FP	梶原	5
1	豊島	FP	菅	1
0	染谷	FP	小澤	1
2	石井	FP	河上	0
0	小野	FP	江藤	0
0	八十岡	FP		
0	横田	FP		
11	(1)	PT	(2)	9

（審・佐倉・藤本）

点が入らず延長戦にもつれ込む。延長開始早々、水海道ポストから得点しリードするがお互いによく守る。後半に入り2分、水海道・三輪がロングを決めゲームを決定づけた。（中島寿美）

具志川17〔8—6、9—4〕10山梨（山梨）

〔戦評〕最初から山梨は、具志川・比嘉へのマークディフェンスの作戦を立て得点力の削減を第一と考えてディフェンスをかためた。しかし具志川・比嘉は、その対応策を頭の中で整理されていた。自分のとなりに味方一人おいてブロックさせ、自分がワンフェイントをかけて走ってのフリーシュートで前半1分後に1点、3分後に1点と連続得点を決めた。その後も比嘉が中心となるゲーム展開で前半8点をとる。

山梨は後半必死にディフェンスしながら右サイド左サイドに的をしぼって得点を決めたが、幅のある具志川に勝利の手が高々と上がった。（高野尚之）

得	〔山梨〕		〔具志川〕	得
0	立川	GK	真嘉志	0
0	三枝	GK	金城桂	0
2	三科	FP	兼城	1
0	矢崎	FP	照屋	0
1	内田	FP	田場	2
5	古屋	FP	比屋根	0
2	山崎	FP	比嘉	10
0	村田	FP	又吉	0
0	功刀	FP	儀保	3
0	淡野	FP	金城明	1
0	甘利	FP	平良	0
0	佐藤	FP	砂辺	0
10	(1)	PT	(2)	17

（審・佐藤、倉本）

名古屋短大付（愛知）14〔6—9、8—4〕13小松商

〔戦評〕小松商の先制で始まり、前半の10分過ぎまでは全く互角の戦い。しかし、名短付は消極的な攻撃が目立ち小松商が徐々に点差を開いた。しかし、小松商もややディフェンスが荒く退場者が出た、スキを突いて名短付も反撃、試合の行方は終盤までもつれたが、小松商がディフェンスのリズムが乱れ、これが致命的になり名短付に逆転を許してしまった。（佐藤博明）

得	〔小松商〕		〔名短付〕	得
0	東方	GK	徳永	0
0	馬場	GK	浜島	0
1	宮崎	FP	日比	2
0	鈴木	FP	岩野	3
2	松下	FP	寺床	2
2	宮本	FP	岩井田	0
0	吉田陽	FP	丸山	0
3	森	FP	陰	4
3	石村	FP	八田	1
1	谷下	FP	国枝	1
1	高田	FP	飯田	1
0	吉田美	FP	塩田	0
13	(1)	PT	(1)	14

（審・島田、後藤）

福井商（福井）23〔13—6、10—8〕14県岐阜商

〔戦評〕前半15分過ぎまで単調な流れとシュートの打ち合いであったが決まらず、15分で福井商4—4県岐阜商であった。しかし、福井商・高橋のロングシュートが決まり、また、ポストを有効に使い着実に加点して前半を終了。後半に入ってからも相手のミスを速攻につなげ、後半は福井商のペースであった。（小林敏）

得	〔岐阜商〕		〔福井商〕	得
0	石原	GK	小道才	0
0	川島	GK	田中	0
2	徳永	FP	米沢	4
2	馬場	FP	金子	1
4	松野	FP	藤木	3
2	吉井	FP	長谷川	1
2	浅野	FP	伊内	3
1	小椋	FP	高橋	8
0	川瀬	FP	牧野	2
1	鬼頭	FP	小林	0
0	村田	FP	篠田	1
0	新井	FP	帰山	0
14	(0)	PT	(3)	23

（審・伊藤、星）

佼成学園（東京）16〔10—5、6—9〕14彦根商

〔戦評〕立ち上がり両チームとも固さがみられ、20分過ぎまで一進一退であったが、20分過ぎから佼成学園のロングシュート、カットインプレーが決まり、5点差をつけ佼成学園リードで前半を終る。後半20分近くまでシュートミス、パスミスなどで目まぐるしくプレーは動くも得点にはならず、20分過ぎから彦根は佼成・竹吉へのマンツーディフェンスで佼成リズムをくずし1点差まで詰め寄ったが惜しくも逆転出来ず終了する。（浅野喜圀）

得	〔彦根商〕		〔佼成〕	得
0	川幡	GK	宇井	0
0	圓城	GK	戸塚	0
2	森	FP	湯野川	1
0	石田	FP	近藤	4
5	木村	FP	竹吉	3
3	鋒山	FP	真名子	1
0	藤居	FP	三村	0
1	矢野	FP	執印	5
3	山田	FP	杉山	0
0	嶋佐	FP	村田	1
0	越智	FP	桐谷	1
0	間柴	FP	坂本	0
14	(4)	PT	(1)	16

（審・大河原、小林）

川口青陵（埼玉）24〔11—7、13—12〕19夙川学院

〔戦評〕両チームともきびきびとした早い動きのあるチームであるが、青陵の固い守りが夙川のカットインを許さず前半リードを奪う。4点差を追う夙川は、後半、半速攻、カットインが決まり残り10分で15対15と同点となり、その後一進一退の攻防であったが、残り2分で退場があり青陵がせり勝った。盛り上がりのある好試合であった。（伊藤靖）

得	〔夙川〕		〔川口青陵〕	得
0	重森	GK	田仲	0
0	松田	GK	半藤	0
6	西村	FP	渡部	0
3	小沼	FP	天野	4
3	高橋	FP	宮下	0
0	江崎	FP	永嶋	0
0	西口	FP	七木田	5
2	上野朝	FP	中野	0
1	上野知	FP	佐藤恵	4
0	伊藤	FP	厚沢	1
3	大林	FP	紅林	3
1	大矢	FP	佐藤久	0
19	(4)	PT	(1)	24

（審・千野、斉藤）

岩国商25〔15—7、10—5〕12有馬商（長崎）

〔戦評〕岩国商立ち上がりより速攻で順調に加点、楽な試合展開とする。一方有馬商、カットイン、ポストプレーを幾度も試みるが岩国商のディフェンスはそれを許さなかった。岩国商ダブルスコア以上で前半を終了。後半も前半同様ほとんど有馬商の決め手のないまま岩国商の前半の貯金で勝つ。有馬商にロングシュートがなかったのは残念である。（星保信）

得	有馬		岩国商	得
0	田口	GK	高林	0
0	竹市	GK	河原	0
2	井村	FP	吉田	5
2	宮崎	FP	石村	11
0	近藤	FP	上村	1
4	高橋	FP	香井	3
4	瀬川	FP	芦村	0
0	小田	FP	室重	1
0	相良	FP	藤村	4
0	溝田	FP	清水	0
0	大崎	FP	近藤	0
0	桐山	FP	善本	0
12	(1)	PT	(3)	25

（審・大河原 小林）

群馬女短附（群馬）17〔9－5, 8－10〕15 四天王寺

〔戦評〕前半、群女は生方のポスト、小柏のロングなどで5対0とリード、四天王寺は10分過ぎからサイド攻撃、速攻などで追い上げたがPT3本の失敗もあり、群女の高いディフェンスを突破できず4点リードを許した。後半も群女は前半同様に生方のポスト、小柏のロングで着々と加点、一方、四天王寺も西村のポスト、橋本、蓮本の速攻で最後まで粘ったが、辛くも群女が逃げきった。四天王寺の橋本、蓮本は小柄ながらよく走った。（大河原浩気）

得	四天王寺		群女短	得
0	清水	GK	高井	0
0	水口	GK	阿部	0
2	田中	FP	浅川	0
5	橋本	FP	岩井	0
3	蓮本	FP	畠山	0
2	井上	FP	佐藤	0
0	留河	FP	小柏	5
0	中西	FP	大沢	0
3	西村	FP	川田	1
0	宮本	FP	生方	11
0	八木	FP	木村	0
0	堀畑	FP	草野	0
15	(1)	PT	(1)	17

（審・浅野 清水）

大曲農 24〔11－10, 13－11〕21 暁（三重）

〔戦評〕両チームとも開始からよく走り、早い展開で攻め合うが、オーバーステップなど個人ミスが目立ち速攻出し合いとなる。得点も11対10と一進一退を続け前半終了。後半10分過ぎよりセットオフェンスでの攻防が多く見られるようになり、その差が最後の3点差につながり、辛くも大曲農が逃げ切った試合だった。（清水勝）

得	暁		大曲農	得
0	北端	GK	鈴木	0
0	片岡	GK	草彅	0
2	江川	FP	後藤	10
0	伊藤	FP	小松晃	0
0	小林	FP	今野	1
0	西本	FP	小反	0
0	永峰	FP	佐藤由	1
5	中根	FP	佐々木	0
3	上山	FP	佐藤薫	2
5	柴田	FP	小松	2
2	三宅	FP	長沢	4
4	内田	FP	小松秀	0
21	(2)	PT	(3)	24

（審・斉藤 千野）

栃木女 19〔10－9, 9－6〕15 九州女（福岡）

〔戦評〕立ち上がり、セットからの堤のロングを中心に攻める栃木女、二次速攻から早いパスワークで対抗する九州女12分合屋のロングで波に乗り追い上げた。後半、九州はキャップテン合屋がマンツー気味にマークされてから攻撃のリズムをくずしたのに対し、栃木はロング、ステップシュートに加え速攻も出て粘る九州を突き離した。セット攻撃に優る栃木が勝利をおさめた一戦でなかなかの好ゲームであった。（倉本紘一）

得	九州女		栃木女	得
0	木村	GK	老沼	0
0	浜里	GK	山下	0
5	合屋	FP	黒崎	2
3	林	FP	磯部	0
4	羽鳥	FP	池嶋	1
0	毛利	FP	堤	6
1	柴田	FP	山士家	0
2	篠崎	FP	岸	0
0	金森	FP	和気	0
0	古賀	FP	橋本	0
0	岩本	FP	高森	6
0	鶴	FP	落合	4
15	(2)	PT	(1)	19

（審・島田 後藤）

粉河（和歌山）20〔8－8, 12－2〕10 有磯

〔戦評〕小兵ながら速い動きが持ち味の粉河に対するフローターからサイドへふるオーソドックスな攻撃の有磯、前半互いに譲らず8対8の同点で折り返す。後半に入ると粉河は、福島を中心とした速い動きからポスト、サイド、速攻と9連続得点を決め17対8と有磯を大きく突き放した。有磯は後半21分間粉河のGK藤平の好守にはばまれ得点を出来ず、3回戦進出を果たす事が出来なかった。（後藤登）

得	有磯		粉河	得
0	坂	GK	藤平	0
0	余川	GK	中尾	0
2	大石	FP	戸口	2
4	海ヶ倉	FP	福島	8
0	山崎	FP	瀧川	3
2	目代	FP	竹内	2
0	谷内	FP	山本	2
1	中川	FP	蓬台	1
0	町口	FP	美馬	0
0	井上	FP	高幣	0
1	国多美	FP	川上	1
0	国多な	FP	北田	0
10	(1)	PT	(3)	20

（審・中島 高野）

聖和学園 22〔12－4, 10－10〕14 上磯（北海道）

〔戦評〕両チームともボールが手につかないすべり出しで先取点は上磯。13分過ぎに聖和同点とし、その後4連続得点で主導権を握る。お互いにファールの多い前半であった。12対4で終了。地元の意地を見せ上磯も後半頑張ったが、前半の失点が大きく響いたゲームであった。（林俊夫）

得	上磯		聖和	得
0	伊藤	GK	今野	0
0	中崎	GK	伊藤	0
4	藤本	FP	鈴木	1
5	腰本	FP	菅井	7
3	柴田	FP	遠藤	1
2	森	FP	大槻	1
0	住吉	FP	田島	4
0	鎌田	FP	片倉	7
0	竹内	FP	広野	0
0	信田	FP	加藤	0
0	豊川	FP	大沼	0
0	山田	FP	佐藤	1
14	(1)	PT	(1)	22

（審・横瀬 矢澤）

有馬 14〔5－7, 9－5〕12 本庄（宮崎）

〔戦評〕両チームとも同じようなタイプ、小柄な本庄も良く走って18分まで4対4のタイスコア、残

得	本庄		有馬	得
0	坂田	GK	大塚	0
0	巣山	GK	座本	0
2	新坂	FP	加古川	1
8	金子	FP	土谷	7
0	佐藤	FP	柳原	0
1	東郷	FP	磯野	1
1	日高	FP	上島	0
0	梅田	FP	新井	4
0	海老原	FP	大附	0
0	後藤	FP	梅沢	1
0	木下	FP	池谷	0
0	児玉	FP	坂本	0
12	(4)	PT	(5)	14

（審・山辺 林）

り4分で走りに勝る本庄が7対5で折り返す。後半は一進一退のシーソーゲームの展開、残り7分で本庄・金子の退場があり有馬が2点リードする。これが最後まで続き本庄涙をのむ、負けはしたが本庄・新坂の小柄な選手の動きの良さが目立った。（横瀬藤雄）

3回戦

昭和学院 21 ｛10—7 / 11—9｝ 16 熊本女商

〔戦評〕前半、ポストプレーを中心に攻撃する熊本女商とロングシュートを狙う昭和のシーソーゲームであった。後半途中から熊本女商のシュートミス3本の間、昭和・座間が得点を決め突き放した。熊本女商の早いパスワークとポストプレーはすばらしかった。（半田忠）

得	〔昭和〕		〔熊本女〕	得
0	石田	GK	平田	0
			城下	0
2	熱田	FP	久保田	2
5	高橋三		松井	4
3	伊原		酒井	0
10	座間		河野	5
1	田村		内田	4
0	井口		高洲	0
0	竹田		野角	0
0	高橋優		吉丸	0
0	山崎		黒川	0
0	斉藤		栗林	1
21	(3)	PT	(2)	16

（審・島田・後藤）

水海道二 24 ｛11—12 / 13—4｝ 16 青森西

〔戦評〕両チームとも立ち上がりパスミス、雑なシュートが多く初得点が7分経過してより水海道二であった。その後落ちつきを取り戻し、水海道二・三輪のシュートが決まりだし前半は水海道二が13対4でリードして終了。青森西は長身の貴田にボールを集めロングシュートを打つが決まらず攻撃に一考あり。後半は両チームとも良く走り、青森西も追い上げて面白味のあるゲーム展開をする。前半の差が惜しまれる。（横瀬藤雄）

得	〔水海道二〕		〔青森西〕	得
0	小松崎	GK	肴倉	0
0	冨山		杉山	0
4	古谷	FP	貴田	5
7	三輪		藤川	2
5	若林		小林	4
1	豊島		山本	2
0	染谷		荒内	1
1	石井		川村	0
3	小野		倉内	0
1	鈴木		福士	2
2	八十岡		成田	0
0	横田		小田	0
24	(3)	PT	(1)	16

（審・武田・小越）

名古屋短大付 34 ｛19—10 / 15—9｝ 19 具志川

〔戦評〕名短付の走りが光ったゲーム内容であった。具志川は比嘉がマンツーをかけられた為、攻めのリズムが合わず比嘉を生かしきれなかった。しかしポストからのシュートを決め応戦したが15―9で前半終了。後半も同じパターンの内容で名短付が走りを生かし着実に加点。（小林斂）

得	〔名短付〕		〔具志川〕	得
0	徳永	GK	真喜志	0
0	浜島		金城桂	0
14	日比野	FP	兼城	4
3	岩野		照屋	0
3	寺床		田場	2
0	岩井田		比屋根	0
0	丸山		比嘉	8
7	陰		又吉	0
0	八田		儀保	5
6	国枝		金城明	0
1	飯田		平良	0
0	塩田		砂辺	0
34	(1)	PT	(1)	19

（審・島崎・井上）

3回戦の具志川対名短付の一戦

佼成学園 30 ｛15—3 / 15—7｝ 10 福井商

〔戦評〕速い動きのゲーム展開であった。立ち上がりは福井商のペースで始まったが、攻撃ミスを佼成学園が逆速攻などで9連続得点で流れを変え前半15対3で終了する。多彩な攻撃を全員一丸となって攻めるパターンは、後半になっても休む事はなかった。福井商の最後まで一人一人が頑張る姿勢に好感が持たれた。（林俊夫）

得	〔佼成〕		〔福井商〕	得
0	宇井	GK	小道才	0
0	戸塚		田中	0
3	湯野川	FP	米沢	2
5	近藤		金子	2
7	竹吉		藤木	1
4	真名子		長谷川	0
1	三村		伊内	3
6	執印		高橋	0
1	杉山		牧野	2
0	村田		小林	0
3	桐谷		篠田	0
0	高橋		帰山	0
30	(3)	PT	(1)	10

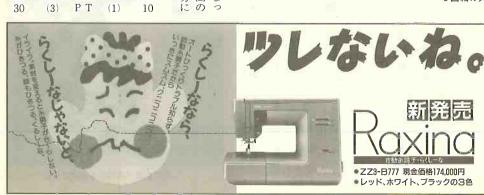
（審・錦織・棚橋）

岩国商 22（13－4、9－8）**12 川口青陵**

〔戦評〕前半立ち上がりから、ポスト攻撃を考え過ぎた川口青陵のパスを岩国商がカットし着々と加点、川口青陵はセットで点が取れず13対4で岩国商が前半リードで終了。後半川口青陵も必死で追い上げたが、決め手を欠き、挽回出来なかった。（棚橋伸男）

得	〔岩国商〕		〔川口青陵〕	得
0	高林	GK	田仲	0
0	河原		半藤	0
3	吉田	FP	渡部	0
7	石村		天野	1
2	上村		宮下	0
2	香井		永嶋	0
0	芦村		七木田	1
5	室重		中野	0
3	藤村		佐藤恵	7
0	清水		厚沢	0
0	徳本		紅林	3
0	善木		佐藤久	0
22	(1)	PT	(3)	12

（審・山辺・林）

大曲農 31（14－9、17－9）**18 群馬女短附**

〔戦評〕セットオフェンスからの攻撃を主とする両チーム、前半10分過ぎから大曲農・小松のロングシュートが決まり出し一歩リードする。群馬女短附はシュートが弱くGKに阻止され、速攻に持ち込まれる場面が多かった。後半一時大曲農のディフェンスが乱れ、群馬女短附が点差を縮めたが、バランスのとれた大曲農が地力を発揮し勝利を得た。（井上真也）

得	〔大曲農〕		〔群女短〕	得
0	鈴木	GK	高井	0
0	草彅		阿部	0
8	後藤	FP	浅川	1
10	小松晃		岩井	0
1	今野		畠山	1
3	小友		佐藤	3
3	佐藤由		小柏	7
0	佐々木		大沢	1
0	佐藤薫		川田	1
5	小松紀		生方	4
1	長沢		木村	0
0	小松秀		草野	0
31	(3)	PT	(0)	18

（審・大河原・小林）

栃木女 21（12－7、9－4）**11 粉河**

〔戦評〕栃木女は堤を中心に良くパスをつなぎ、足を使った攻撃で着実に加点した。一方、粉河も全員が良く走り早いパスワークからシュートを狙うが、栃木女ディフェンスを破ることが出来ず前半を終了。後半に入っても栃木女は、サイド、ポストでのシュートを確実に決め、必死に食い下がる粉河を突き離した。（小越康雄）

得	〔栃木女〕		〔粉河〕	得
0	老沼	GK	藤平	0
0	山下		中尾	0
2	黒崎	FP	戸口	1
2	磯部		福島	5
0	池嶋		瀧川	1
6	堤		竹内	1
0	山士家		山本	1
0	岸		蓬台	0
0	和気		美馬	2
0	橋本		高幣	0
5	高森		川上	0
6	落合		北田	0
21	(0)	PT	(2)	11

（審・横瀬・矢澤）

有馬 17（5－3、12－10）**13 聖和学園**

〔戦評〕前半、互いに決め手を欠き得点が伸びず静かな立ち上がりであったが、速い動きで有馬が一歩リード、後半に入り、有馬・加古川の退場の間に聖和・田島の速攻で追い上げ、12分過8対10と逆転するも、その後聖和も2名の退場者を出し逆に有馬にリードされ、そのまま終了の笛を聞いた。

両チームともディフェンスが荒く、またミスの目立つ試合であった。（後藤登）

得	〔有馬〕		〔聖和〕	得
0	大塚	GK	今野	0
0	座本		伊藤	0
1	加古川	FP	鈴木	1
7	土谷		管井	3
1	柳原		遠藤	0
5	磯野		大槻	1
1	上島		田島	5
2	新井		片倉	1
0	大附		広野	1
0	梅沢		加藤	0
0	池谷		大沼	0
0	坂本		佐藤	1
17	(3)	PT	(1)	13

（審・菅野・半田）

準々決勝

昭和学院 19（12－8、7－5）**13 水海道第二**

〔戦評〕カットインやPTによる得点が勝り終始リードする昭和学院に対し、水海道はロングシュートで食い下がるが前半を12対8で終了。後半に入っても、ディフェンスの悪い水海道を一方的に攻めまくる昭和に対し、マンツーマンで対抗するが逆転するには至らなかった。（武田節夫）

得	〔昭和〕		〔水海道二〕	得
0	石田	GK	小松崎	0
			冨山	0
0	熱田	FP	古谷	3
3	高橋三		三輪	2
2	伊原		若林	4
11	座間		豊島	1
2	田村		染谷	0
1	井口		石井	2
0	竹田		小野	0
0	高橋優		鈴木	0
0	山崎		八十岡	1
0	斉藤		横田	0
19	(4)	PT	(3)	13

（審・倉本・佐藤）

春の覇者・昭和は準決勝で佼成に敗れる

佼成学園 21（10－11、6－5、4－1、1－2）**19 名古屋短大付**

〔戦評〕長身サウスポーの執印を中心としながらも各々のプレーヤーが多彩なプレーを持つ佼成と、同じくサウスポーのエース日比野を持つ名短付のゲームは、最後まで予測のつかない好ゲームとなった。名短付は再三ノーマークのチャンスを佼成GK宇井の美技に阻止されながらも、土壇場で延長に持ち込んだ。しかし、延長に入っても宇井の美技の連続に得点が伸びず涙を飲んだ。（清水宣雄）

得	〔佼成〕		〔名短付〕	得
0	宇井	GK	徳永	0
0	戸塚		浜島	0
2	湯野川	FP	日比野	3
2	近藤		岩野	6
5	竹吉		寺床	3
4	真名子		岩井田	0
3	三村		丸山	0
3	執印		陰	3
0	杉山		八田	2
0	村田		国枝	1
2	桐谷		飯田	1
0	坂本		塩田	0
21	(1)	PT	(3)	19

（審・斉藤・千野）

大曲農 23（10－10、13－8）**18 岩国商**

〔戦評〕前半、大曲農はセンタースローから後藤、小反、長身小松のロングなどで13分7対2とリードした。その後、岩国商ディフェンスの早いつめでシュートミスを誘い、それを石村、藤村が速攻につないで6連続得点し一気に追いつき10対10で終了。後半大曲は全員良く走り速攻で着々と加点した

のに対し、岩国は勝負どころの12分、相手に退場者が出ている間に得点できずに逆に1点取られたのが痛く、リズムに乗り切れなかった。（倉本紘一）

得	〔大曲農〕		〔岩国商〕	得
0	鈴木	GK	高林	0
0	草薙	GK	河原	0
5	後藤	FP	吉田	2
8	小松晃	FP	石村	8
0	今野	FP	上村	1
1	小友	FP	香井	3
2	佐藤由	FP	芦村	0
0	佐々木	FP	室重	2
2	佐藤薫	FP	藤村	2
5	小松紀	FP	清水	0
0	長沢	FP	近藤	0
0	小松秀	FP	徳本	0
23	(4)	PT	(2)	18

（審・岡本、清水）

栃木女16 〔6−9／10−6〕 15有馬

〔戦評〕両チームとも固さが見られるスタートだったが、栃木女・堤のステップなどで加点序盤をリード、有馬は堤をマンツーで対抗、素早い動きで20分過ぎに逆転に成功3点差で前半を終了。後半に入り有馬のディフェンスのツメが甘くなったところを栃木女が突き、後半12分過ぎに同点に追いつく、その後一進一退の攻防が続いたが残り一分、栃木女・高森のロングで貴重なゴール、持ち味を生かした好ゲームであった。（佐藤博明）

得	〔栃木女〕		〔有馬〕	得
0	老沼	GK	大塚	0
0	山下	GK	座本	0
3	黒崎	FP	加古川	4
1	磯部	FP	土谷	4
0	池嶋	FP	柳原	0
3	堤	FP	磯野	2
0	山士家	FP	上島	2
0	岸	FP	新井	3
0	橋本	FP	大附	0
5	高森	FP	梅沢	0
4	落合	FP	池谷	0
0	荒川	FP	坂本	0
16	(0)	PT	(1)	15

（審・武田、田中）

準決勝

佼成学園12 〔4−4／8−7〕 11昭和学院

〔戦評〕前半、両チームともに固さが見られ本来のプレーを出し切れず、佼成の先取点後昭和は11分間ノーゴールであった。後半は互いに必死の攻防で1点を競う好ゲームの連続。昭和は熱田のサイドシュートで2点差をつけたが、PTスローを落としたのが大きな敗因であった。佼成は執印のロング、真名子のサイドシュートで勝負を決めた。両チームの健闘をたたえたい。（半田忠）

得	〔佼成〕		〔昭和〕	得
0	宇井	GK	石田	0
0	戸塚	GK		
1	湯野川	FP	熱田	2
1	近藤	FP	高橋三	1
6	竹吉	FP	伊原	0
2	真名子	FP	座間	5
1	三村	FP	田村	1
1	執印	FP	井口	0
0	杉山	FP	竹田	0
0	村田	FP	高橋優	2
0	桐谷	FP	山崎	0
0	坂本	FP	斉藤	0
12	(2)	PT	(0)	11

（審・斉藤、千野）

大曲農21 〔11−7／10−9〕 16栃木女

〔戦評〕立ち上がり、大曲農は小松のロング、後藤のカットインなどで4対0の好スタート。栃木女もポストを中心に攻撃するが、GKの好守にもあい反撃の体制ができぬまま前半を終了。後半に入り、栃木女は大曲農のゲームメーカー後藤を密着マンツーをかけるが、要所で栃木女にミスが目立ち自滅する格好となった。大曲農GKの活躍が目をひいた一戦であった。（佐藤博明）

得	〔大曲農〕		〔栃木女〕	得
0	鈴木	GK	老沼	0
0	草薙	GK	山下	0
5	後藤	FP	黒崎	2
9	小松晃	FP	磯部	1
0	今野	FP	池嶋	0
0	小友	FP	堤	6
0	佐藤由	FP	山士家	0
0	佐々木	FP	岸	0
0	佐藤薫	FP	橋本	0
4	小松紀	FP	高森	6
2	長沢	FP	落合	1
1	小松秀	FP	荒川	0
21	(2)	PT	(0)	16

（審・島田、後藤）

決勝、大曲も善戦するが及ばず

決勝

佼成学園30 〔15−5／15−8〕 13大曲農

〔戦評〕大曲農、立ち上がりから攻守のリズムが噛み合わずミスが多く苦戦。一方の佼成は、足を使い伸び伸びプレーで相手ゴールに次々にシュート、特にキャップテン竹吉の動きが光り、前半を10点の大差でリードし勝敗の行方が決まった感がある。

後半に入っても流れは変らず、佼成女は大曲農を圧倒し東京代表として、佼成女としても見事な初優勝を飾った。

大曲農も最後まで粘り強く攻めたが、力及ばず敗れたが健闘を讃えたい。（佐藤博明）

得	〔佼成〕		〔大曲農〕	得
0	宇井	GK	鈴木	0
0	戸塚	GK	草薙	0
5	湯野川	FP	後藤	3
3	近藤	FP	小松晃	5
9	竹吉	FP	今野	0
4	真名子	FP	小友	0
0	三村	FP	佐藤由	0
4	執印	FP	佐々木	0
1	杉山	FP	佐藤薫	0
0	村田	FP	小松紀	4
4	桐谷	FP	長沢	4
0	坂本	FP	小松秀	0
30	(1)	PT	(2)	13

（審・岡本、清水）

第15回インテラムニアカップ '87ホンジハンドボールフェスタ 報告

全日本女子ジュニア
監督　藤原　侑
コーチ　梶岡俊介
〃　鈴木孝八郎

「第15回インテラムニアカップ」は、7月3日~7月11日までイタリア、テラモ市で開催されましたが、各種別340チームの参加を数え、盛大なハンドボールフェスティバルとなりました。女子ナショナルチームは当初12チームの予定でしたが、11チームとなり、Aグループ6チーム、Bグループ5チームの各リーグ戦の闘いとなりました。日本チームの成績、出場チームの成績、順位等については別記のとおりです。

また、「ハンドボールフェスティバル87」は7月12~7月17日までホンジ市で行なわれ、新たなチームを迎え6チームでのリーグ戦となりました。日本チームの成績、出場チームの成績、順位等については別記のとおりです。

日本チームは昨年度経験者が4人、12人が新人というメンバーで臨みましたが両大会とも4位の成績に終りました。今回はソ連、韓国の世界トップレベルのチームが両大会に参加しましたので、日本女子ジュニアチームの力量を知る上においても意義のある参加でありました。

平均180cmのソ連に対して果敢に攻めた日本に対し、手を抜くことなく容赦なしに得点をあげたソ連に驚異と壁の厚さを感じ、そのソ連に2点差の勝負を挑んだフランスチームに驚異を抱き、スピードと切れのよいフェイントの韓国と大変勉強になりました。

これらの体験を更に生かし、来る秋の世界女子ジュニアハンドボール選手権大会に好成績を上げるべく努力精進する覚悟でございます。

今後共、関係者の皆様の一層のご指導、御鞭達をお願い申し上げます。

インテラムニアカップ成績

▼予選A組

台　湾 20－17 ノルウェー
ソ　連 棄権 シリア
日　本 27（15－9，12－8）17 スイス
〔得点〕市来6、小池4、橋本3、斉藤3、大林2、貞本2、森田2、小林2、川井2、稲田1。
スイス 18－18 ノルウェー
ソ　連 41－15 台　湾
日　本 35（14－7，21－5）12 シリア
〔得点〕小池9、松田9、貞本5、森田5、山岸3、川井2、稲田1、斉藤1。
ノルウェー 26－16 シリア
台　湾 28－22 スイス
ソ　連 50（25－14，25－9）23 日　本
〔得点〕市来6、松田5、貞本4、斉藤4、小池3、橋本1。
スイス 25－15 シリア
ソ　連 39－13 ノルウェー
日　本 23（13－9，10－9）18 台　湾
〔得点〕小林6、松田5、小池4、市来3、橋本2、貞本1、斉藤1、川井1。
日　本 24（13－8，11－6）14 ノルウェー
〔得点〕松田6、小池4、市来3、森田3、橋本2、貞本2、斉藤2、小林1、川井1。
台　湾 37－21 シリア
ソ　連 28－12 スイス
〔A組順位〕①ソ連②日本③台湾④ノルウェー⑤スイス⑥シリア

▼予選B組

フランス 31－12 カナダ
ブルガリア 30－27 チェコ
チェコ 30－11 カナダ
フランス 30－22 韓国
ブルガリア 26－25 韓国
フランス 23－14 チェコ
フランス 17－16 ブルガリア
韓　国 41－21 カナダ
韓　国 39－25 チェコ
ブルガリア 34－17 カナダ
〔B組順位〕①フランス②ブルガリア③韓国④チェコ⑤カナダ

▼3・4位決定戦

ブルガリア 29（13－15，16－9）24 日　本
〔得点〕斉藤6、市来6、貞本5、小池3、川井2、松田1、森田1。
〔総合順位〕①ソ連②フランス③ブルガリア④日本⑤韓国⑥台湾⑦チェコ⑧ノルウェー⑨カナダ⑩スイス⑪シリア

ホンジハンドボールフェスタ成績

▼第1戦
日　本 21（14－4，7－5）9 ポーランド

▼第2戦
韓　国 28（12－12，16－10）22 日　本

▼第3戦
チェコ 15（7－6，8－8）14 日　本

▼第4戦
日　本 20（11－7，9－5）12 カナダ

▼第5戦
ソ　連 26（14－6，12－6）12 日　本

選手たちの感想文から

小林江利子

7月4日から1週間にわたって、第15回インテラムニアカップがテモラ市で盛大に開催されました。私たち全日本女子ジュニアチームは、まず予選リーグでスイス、シリア、ソ連、台湾、ノルウェーとの5試合が組まれていました。連日続く試合の中で1試合でも気を緩める事など許されず、異った環境の中で体力と気力を持続させるのは、なかなか難しい事でした。イタリアは大変日差しが強く、日照時間も日本よりもずっと長く、国全体の生活のリズムが全く違うといった感じでした。

試合の結果は、予選リーグでソ連に1敗し、3位決定ではブルガリアに敗れ4位という成績でした。ソ連戦では23対50というスコアで大敗はしましたが、現在の世界の女王と呼ばれるチームと実際に対戦する事が出来たのは私たちにとって大きな収穫だったと思います。ソ連の選手は確かに体格も大きく私たちとは比べものになりませんでしたが、プレーの一つ一つどれを取っても正に「ソ連の壁は厚い」という感じを受けました。

勿論ソ連だけでなく、世界のプレーをこの目で見て、体験する事が出来たのは、私たちが今後もハンボールを続けて行く上でも、大変幸せな事だと思います。このような貴重な体験をこの場限りで終わらせるのではなく、見た事、感じた事を少しでも吸収し、自分のプレーに生かして行きたいと思います。

橋本奈美子

私にとって初めての海外遠征、そして初めての外人との試合。何をとっても良い体験であり、素晴らしい思い出になりました。

私たちは、7月2日、日本をたち28時間という長い旅を終え、3日にイタリアへ着きました。

翌日から早速、ゲームが待っていました。

予選リーグの初戦の相手はスイスでした。今年は、1試合でも多く勝つことはもちろん、世界選手権へのステップとなるための試合をと望んでの遠征でした。それには、まず初戦から1勝をあげ、好スタートを切ろうという思いでした。

当日は、さすがに前日までの旅の疲れでなかなか体は思うように動かせませんでした。しかし、なんとか良い調子へもっていくため、各自で汗を流しました。

ゲーム前、スイスはどんなチームで、どのくらいの力があるんだろうかと、多少不安を感じていましたし、どれだけ自分のプレイが外人に通用するのだろうかと思いました。

実際ゲームを体験して、日本の方がスピードでは負けていないと思いました。ただ、DFで体が小さいだけに、相手のパワーにかなわなかったり、押しこまれたりすることが多かったと思います。でも、いくら相手が大きいといっても、相手をつぶしに出るタイミングさえつかめば守れると思いました。

初戦であり、内容が充分であったとはいえませんけど、外人に対するプレーの感覚がつかめて、良いスタートを切ることができたと思います。

大林恵子

インテラムニアカップ第1試合スイス戦でケガをしてから、コートの外で見ていてコートでプレーしている人より、コートの外で見ている人のほうがどれだけ悔しいかこの遠征を通して感じました。ゲームはコートの中だけの力ではなく選手全員で盛り上げていくことが大切なことがわかりました。

インテラムニアカップ及びホンジハンドフェスタで一番印象の強かった試合といったら、やはりソ連戦でした。日本に比べ身長、プレーの幅、スピードとそろっていて、あのソ連チームにミドルシュート、スカイまでも決める事が出来たのは、皆が試合に集中し、懸命に頑張ったからだと思います。

このソ連戦であれだけできたのに、どうして他の試合運びが悪かったのか考えられません。

私は、去年この大会で韓国との試合が一番悔しかったです。今年は韓国に勝つチャンスだったと思うのですが……。皆がソ連戦のように積極的に試合運びをしていたら勝てたと思います。

最後に、カナダ戦にメンバー登録されてうれしかったです。試合でペナルティーを打ったのは初めてでした。カナダ戦で4本中1本しか入らなかったけれど、試合に出れてとてもうれしかったです。

松田史佳

7月4日午後5時30分、私は、イタリアのテラモの地で、「きもの」を着て立っている。「きもの」を着るなんて何年ぶりだか……。しかもそれが外国とは、夢にも思っていなかった。

6時、いよいよパレードに出発である。車で15分ほどで、目的地の広場についた時は、すでに、各チームがそれぞれの衣装を身に着け、大勢集まっていた。美しくきれいなものからとてもかわいい民族衣装まで、色とりどりで、テレビでしか見たことのない自分にとってはとても感激だった。

自分たちが、車から降りたなり騒ぎ笑い合っていた人たちが、一斉に日本に注目した。とても驚いた。途端に、人々が私たちに写真を求めて寄ってきた。こうやって、他国との交流を深め、語り合った。

テラモの町中を少しずつ歩いた。右にも左にもたくさんの町の人が、私たちに手を振っている。「チャオ」「チャオ」といって。必死になってそれに応えた。日本でこういった場面は、プロ野球選手か、タレントしか、味わえないことだと思う。今まで求められたことのないサインをテモラの子供たちに頼まれ、少し照れ臭い感じがした。

自分は、正直いってこれだけ日本が人気があるとは想像もしていなかった。それだけに、とてもうれしかった。

しかし何よりも、痛感したことは、イタリア人の心の温かさである。イタリア人から見た日本、日本人のイメージは、どうだったかわからないが、少なくとも私からみたイタリア人は、とても日本に親しみを感じているように思われた。

ハンドボールを通じて、こういった体験ができるのは、ほんとうに最高の幸せだと思う。限られた

本当に少ないチャンスを、自分が実際に味わえたことを大切にし、自分の一生の宝にしたい。

稲田知鶴

11日に、テラモからホンジへと移動しましたが、着いてまず暑さにびっくりしました。そして、その日は夕方からパレードという事で、みんなでユカタを着て、出かけました。歩いてみて、テラモでのパレードのにぎやかさ、華やかさに比べ、ホンジの方は本当にあっけないの一言でした。でも、段々と人が増えて、会場の中には会場いっぱいに本当に大勢の人たちが盛大に迎えてくれました。

そして次の日、12日からいよいよホンジでの第1試合です。午前中の練習では、とにかく暑くて大変でした。夕方は7時からのゲームに合わせてアップをすませ、会場へ行くと、大勢の人が居て気持ちも高まりましたが、第1試合という事で緊張しました。相手は、ポーランドです。向こうは、スピードもあまりある方ではなく、フェイントもきれる人もいない。とにかく力で、押してくるというチームで、それでペナルティをとられてしまうケースが何本かあり、私も入ってすぐ、警告をとられてしまいました。守りも攻撃もきれて、スピードもなくミスが目立ち、前半は7対5と2点しかリードする事が出来ず、本当に情けなかったです。私もポストでミスとかしてばかりで、シュートの1本も打てませんでした。後半では、速攻などで点をかせいで引き離す事は出来ましたが、チームとしては、今一つの出来でした。13日は、韓国戦です。前日の試合を挽回しようと、練習やアップはみんな声が出ていて、活気も段々と出てきました。ゲーム開始は、夜の8時からでした。日本の守りのつめが弱く、ミドル、ロングなど打たれ、攻撃では、ミスもあり、得点に結びつかない場合が何度かありました。こちらも頑張りましたが、前半は、10対16でリードされました。後半も点はなかなか縮まらなかったのですが、守りも粘りが出て、うまく調子が出てきて12対12と同じ点で、22対28という結果でした。韓国は、フェイントからミドルをクイックで打ったり、直サイからシュートを確実に決めてみたりとすごいテクニックを使っていて驚きましたが、守りでは、荒い所があり、よく警告、退場となっていました。

私個人の反省としては、言いきれないぐらいに、沢山あり、まだまだ努力が必要だと思います。カットのタイミング、ポストの動きなど覚える事がいっぱいです。一番の課題として、外人を相手にする場合、守りは受けていないで前で当たり、ボールを押さえるという事で、攻撃では、上からパスをもらうだけでなく、縦に出て、フローターとの合わせ、またブロックなど、多くの動きを覚える事です。これらの良い経験をいかして、頑張りたいです。

小池美由紀

テラモでのインテラムニアカップを無事終了してホンジへ移りました。ここではホンジハンドフェスタが行われて、ポーランド、韓国、チェコスロバキア、カナダ、ソ連と対戦しました。その中のチェコスロバキア、カナダ、ソ連について振り返ってみたいと思います。

まずチェコ戦。この試合は勝てると思って臨んだんですが、逆に接戦で1点差で負けてしまいました。DFが悪く、ポストで何回もやられすぎでした。DFでリズムがとれなかったから攻撃もちぐはぐって感じでした。結局最後残り何秒で得点され負けたんですが、それなりに勉強になったと思います。

次にカナダ戦ですが、このチームとは前に試合をしていたこともあって、わりとスムーズに試合が運んだと思います。守って速攻というパターンもかなり出たし、次の日のソ連戦をいい形でむかえることができたと思います。

最終戦はソ連です。テラモで対戦した時は、ミスからの速攻をかなりされて50対23と大きく点差が開いたんですが、今回はミスも少なく、自分たちのゲームがある程度できたと思います。やはり、勝敗にこだわらずに当たって砕けろの積極的な気持ちでやったのが良かったと思います。ソ連とやって確かにものすごく強かったけど、もう少しDFで怖がらずに前でアタックしていけば、得点はある程度とれるんだからもっと対抗できるのではないかと思いました。

この3試合に限らず、全試合を振り返ってみて、ソ連戦のように、ある程度勝敗がわかっている時はいい試合ができるのに、勝敗を意識してしまうといつもの自分たちのペースがつかめずに消極的になってしまうというパターンが多かったと思います。攻撃は誰かに頼り、守りでは下がって受け身になって……。今回のイタリア遠征は、世界選手権への第一歩だったわけですから、本番までには今回悪かったことは反省し、また学んだことは生かせるようにしないといけないと思いました。短時間でどこまで出来るかわからないけど頑張りたいと思います。

最後に、このイタリア遠征に行くことができて本当に良かったと思います。生活面・試合面といろいろな思い出がありますが、その一つ一つを大切にとっておきたいと思います。

MIZUNO
THE WORLD OF SPORTS

80
SINCE 1906
ボクら、万有引力とたわむれる

コンケーブ意匠
ヘリボーン意匠
サイドモーション サポートリブ
ピボットリング
フレキシブルゾーン

パワー効率重視。コートのマシン〈ランバード〉

室内コート専用のマルチファンクション ソール。

前後左右、あらゆる方向へのトラクション性にすぐれたヘリンボーン意匠をベースに、かかとには着地時の衝撃を吸収、分散するコンケーブ意匠を配置。また、ソール前半にはパワーロスを防ぐサイドモーション サポートリブ、回転運動の軸となるピボットリングをはじめ、屈曲性を高めるフレキシブルゾーンなどをレイアウト。多様なプレーに対応するソールパターンが生まれました。

〈ランバード〉ハンドボール シューズ
《ウイング ショット》¥12,000

- 甲/牛革 ●補強材/人工皮革 ●底/ラバー ハーフシェル ソール
- カラー/16KH-1527 ホワイト・レッドにメタリックネイビー ライン
  /16KH-1562 ホワイトにレッド ライン

各地の記録から・・・

東北

国体青森県予選

（7月11、12、18、19日／野辺地町立体育館ほか）

〈成年男子〉

▼1回戦
青商ク 38－27 陸自青森
青森市選抜B 41－22 尾上ク

▼2回戦
野辺地ク 32－27 青商ク
青森市選抜A 52－16 青南ク
海自二空 棄権 海自大湊
七戸ユニオン 36－21 青森市選抜B

▼準決勝
青森市選抜A 34－27 野辺地ク
七戸ユニオン 41－24 海自二空

▼決勝
青森市選抜A 31（15－14、16－15）29 七戸ユニオン

〈成年女子〉

▼決勝（2回戦）
あすなろク 29（12－11、17－8）19 野辺地ク
野辺地ク 20（12－7、8－11）18 あすなろク

〔順位〕①あすなろク②野辺地ク
※得失点差による。

〈少年男子〉

▼1回戦
柏木農 28－16 青森東
青森南 14－13 青森山田
三本木 棄権 十和田工

▼2回戦
青森商 50－14 柏木農
今別 23－6 青森南
青森 30－14 七戸
野辺地 31－14 三本木

▼準決勝
青森商 34－13 今別
野辺地 35－20 青森

▼決勝
青森商 20（10－12、10－7）19 野辺地

〈少年女子〉

▼1回戦
青森西 39－4 七戸
青森商 22－10 青森東
青森中央 23－14 今別
野辺地 23－5 三本木

▼準決勝
青森西 32－3 青森商
青森中央 17－12 野辺地

▼決勝
青森西 29（15－7、14－12）19 青森中央

青森県中学校選手権

（7月12日／野辺地町立体育館）

〈男子〉

▼1回戦
荒川中 22－2 野辺地中
油川中 16－15 浦町中

▼決勝
荒川中 33（16－6、17－3）9 油川中

〈女子〉

▼決勝
浦町中 16（8－6、8－7）13 野辺地中

国体宮城県予選

（7月4、5、24～26日）

〈成年男子〉

▼1回戦
宮城教員 24－12 ピーターパン
東北電力 25－23 青葉星陵会
東北学院大OB 32－12 古川高OB
仙台育英ク 34－29 古川工OB

▼準決勝
宮城教員 47－26 東北電力
東北学院大OB 34－19 仙台育英ク

▼決勝
東北学院大OB 31（16－10、15－17）27 宮城教員

〈成年女子〉

▼1回戦
涌谷高ク 25－15 古川商ク

▼決勝
聖和ク 27（11－11、16－8）19 涌谷高ク

〈少年男子〉

▼1回戦
宮地高専 13－11 東北電子工
古川選抜 40－11 仙台商
仙台高 23－23 宮城広瀬高
3PTC2
仙台一高 38－10 宮城水産高
榴ヶ岡高 23－17 上沼農高
仙台三高 18－11 仙台東高
古川商 26－11 塩釜高
仙台南・仙台三 23－13 古川高
東北高 28－15 名取北高
仙台西高 24－13 泉館山高
佐沼高 20－4 築館高
仙台二高 18－14 泉松陵高

▼2回戦
仙台育英高 30－4 宮城高専
古川選抜 38－9 仙台高
仙台一高 25－12 榴ヶ岡高
仙台南高 13－10 仙台三高
古川商高 28－17 仙台向山高
仙台南・仙台三 27－12 東北高
仙台西高 30－10 佐沼高
仙台二高 24－17 古川工高

▼3回戦
古川選抜 23－13 仙台育英高
仙台一高 23－11 仙台南高
仙台南・仙台三 15－14 古川商高
仙台二高 23－19 仙台西高

▼準決勝
古川選抜 34－11 仙台一高
仙台南・仙台三 24－16 仙台二高

▼決勝
古川選抜 28（13－9、15－8）17 仙台南・仙台三高

〈少年女子〉

▼1回戦
塩釜女高 21－8 仙台西高
飯野川高 32－3 名取北高
宮城二女高 21－7 宮城一女高
朴沢女高 16－7 宮城三女高
泉館山高 16－8 泉松陵高

▼2回戦
聖和学園ク 30－4 塩釜女高
宮城二女高 12－12 飯野川高
4PTC3
朴女高 24－7 古川女高
涌谷高 30－3 泉館山高

▼準決勝
聖和学園ク 27－3 宮城二女高
涌谷高 15－12 朴沢高

▼決勝
聖和学園ク 16（6－4、10－3）7 涌谷高

関東

茨城県民総体兼国体予選

（6月20、21、27、28日／笠間市民体育館）

〈成年〉国体予選の部

▼1回戦
自衛隊勝田 37－19 日本原研

▼準決勝
筑波学園ク 49－18 自衛隊勝田
茨苑ク 59－13 動燃東海

▼決勝
茨苑ク 24（15－11、9－11）22 筑波学園ク

〈成年〉県民総体の部

▼決勝
土浦三高ク 35（19－12、16－17）29 千代田ク

〈少年男子〉

▼1回戦

水海道一 39-14 水戸一
日立一 21-17 玉造工
笠間 27-13 鉾田一
江戸川学園 24-23 土浦湖北
麻生 16-13 太田一
藤代紫水 29-24 古河三
土浦日大 40-17 竹園
岩井 28-26 竜ヶ崎南

▼2回戦
水海道一 43-7 日立一
麻生 27-19 藤代紫水
笠間 28-27 江戸川学園
岩井 23-20 土浦日大

▼準決勝
水海道一 33-13 笠間
岩井 25-24 麻生

▼決勝
岩井 13 (4-9, 9-2) 11 水海道一

〈少年女子〉

▼1回戦
水海道二 28-7 太田二
石岡二 23-10 水戸二
鉾田二 35-15 日立二
結城二 19-12 土浦二
水海道一 16-10 土浦三
麻生 29-13 高萩
竜ヶ崎一 21-20 下館二
竜ヶ崎二 20-7 藤代

▼2回戦
水海道二 36-5 石岡二
結城二 27-10 鉾田二
水海道一 30-21 麻生
竜ヶ崎二 16-14 竜ヶ崎一

▼準決勝
水海道二 30-13 結城二
水海道一 36-19 竜ヶ崎二

▼決勝
水海道二 27 (15-8, 12-5) 13 水海道一

関東学生新人戦

(6月15、16、20、21日／駒沢第一球技場ほか)

〈男子〉

▼1回戦
青学大 33-15 成蹊大
東学大 23-14 東工大
一橋大 19-10 東理大
上智大 14-12 帝京大
明星大 38-11 杏林大
国武大 17-9 東農大
芝浦工大 27-11 千葉大
茨城大 13-11 玉川大
防衛大 27-19 都留大
東経大 20-13 神奈川大
明学大 21-9 産能大
拓大 37-29 立教大

▼2回戦
青学大 20-17 東学大
一橋大 32-6 横浜市大
創価大 10-8 上智大
明星大 22-13 国武大
芝浦工大 22-18 茨城大
東海大 29-14 防衛大
東経大 30-15 亜大
拓大 27-17 明学大

▼3回戦
明治大 21-9 青学大
順天大 30-16 一橋大
法政大 35-9 創価大
日体大 30-21 明星大
中大 30-11 芝浦工大
国士大 22-18 東海大
日大 24-17 東大
筑波大 26-19 拓大

▼準々決勝
順天大 18 (8-11, 10-2) 13 明治大
法政大 27 (12-10, 15-11) 21 日体大
中大 29 (17-5, 12-10) 15 国士大
筑波大 29 (18-13, 11-11) 24 日大

▼準決勝
法政大 28 (18-12, 10-13) 25 順天大
筑波大 35 (19-13, 16-10) 23 中大

▼3位決定戦
中大 24 (15-13, 9-9) 22 順天大

▼決勝
筑波大 24 (13-6, 11-11) 17 法政大

〈女子〉

▼予選リーグ

○Aブロック
日体大 22-11 東女短大
東女体大 27-13 千明短大
日体大 30-13 千明短大

○Bブロック
筏波大 23-10 日女体大
筑波大 36-5 茨城大
日女体大 23-7 茨城大

▼準決勝
日体大 22 (8-11, 14-9) 20 日女体大
東女体大 20 (10-4, 10-8) 12 筑波大

▼3位決定戦
日体大 21 (10-11, 11-7) 18 東女体大

▼決勝
筑波大 26 (14-10, 12-14) 24 日女体大

第17回関東クラブ選手権

(日程不明／山梨・塩山市民体育館、塩山中学校体育館)

〈男子1部〉

▼1回戦
桜門ク 33-19 前橋ク
日吉ユニオンズ 34-17 土浦三高ク
46G会 24-22 日立栃木ク
日川ク 36-8 小金ク

▼準決勝
桜門ク 21-16 日吉ユニオンズ
日川ク 42-10 46G会

▼敗者復活戦
前橋ク 29-23 土浦三高ク
小金ク 29-19 日立栃木ク

▼代表決定戦
日吉ユニオンズ 33-22 小金ク
46G会 35-28 前橋ク

▼決勝
日川ク (14-8, 13-9) 17 桜門ク

〈男子2部〉

○Aグループ
ラージェスト 18-13 市川FOG
市川FOG 22-20 藤岡ク
ラージェスト 26-16 藤岡ク

○Bグループ
甲府ク 15-9 笠間ク
甲府ク 28-17 三春台ク
笠間ク 22-14 三春台ク

▼3位決定戦
市川FOG 21-17 笠間ク

▼決勝
ラージェスト 27 (14-9, 13-15) 24 甲府ク

〈女子1部〉

○Aグループ
日川ク 29-21 和洋ク
和洋ク 10-7 オレンジク
日川ク 16-13 オレンジク

○Bグループ
御城ク 16-15 武蔵野ク
武蔵野ク 16-13 光電ク
御城ク 22-12 光電ク

▼3位決定戦
武蔵野ク 20-18 和洋ク

▼決勝
日川ク 24 (10-7, 14-10) 17 御城ク

〈女子2部〉

▼決勝
保土ヶ谷ク 43 (23-4, 20-4) 8 甲府ク

国体東京都予選

(7月12、19日／東京重機工業体育館)

〈男子〉

▼1回戦
ラージェスト 19-17 東京重機
MHC 26-17 神楽坂ク

▼2回戦
三景 36－11 ラージェスト
中村荷役 28－23 東京教員
三陽商会 26－12 MHC
桜門ク 45－15 自衛隊立川

▼準決勝
三景 30－18 中村荷役
三陽商会 31－19 桜門ク

▼決勝
三陽商会 32（14－9、18－11）20 三景

〈女子〉

▼1回戦
武蔵野ク 26－14 東花ク

▼決勝
東京重機 33（12－11、21－11）22 武蔵野ク

北信越

北信越学生春季リーグ戦

（6月12～14日／金沢市総合体育館、金沢市立美術工芸大体育館）

▼男子1部リーグ
信州大 19（10－7、9－10）17 金沢工大
福井大 29（15－13、14－7）20 富山大
金沢大 30（19－8、11－9）17 福井大
富山大 35（15－14、20－8）22 金沢工大
金沢大 20（10－9、10－7）16 信州大
福井大 25（15－15、10－8）23 金沢工大
金沢大 19（9－7、10－9）16 富山大
福井大 24（14－12、10－12）24 信州大
信州大 22（11－11、11－10）21 富山大
金沢大 33（16－7、17－7）14 金沢工大

〔順位〕①金沢大②信州大③福井大④富山大⑤金沢工大

▼男子2部

○Aリーグ
金沢医大 23－20 富山医薬大
富山医薬大 25－11 北陸大
金沢医大 26－15 北陸大

○Bリーグ
新潟大 35－21 長野大
長野大 22－17 金沢美術工芸大
新潟大 24－11 金沢美術工芸大

○5～6位決定戦
金沢美術工芸大 16－4 北陸大

○3～4位決定戦
富山医薬大 30－28 長野大

○1～2位決定戦
新潟大 24－18 金沢医大

〔順位〕①新潟大②金沢医科大③富山医科薬科大④長野大⑤金沢美術工芸大⑥北陸大

▼女子
富山大 44（24－2、20－0）2 新潟大
金沢大 13（6－4、7－6）10 信州大
金沢大 31（19－1、12－3）4 新潟大
富山大 19（7－6、12－5）11 信州大
富山大 20（10－6、10－6）12 金沢大
信州大 14（10－5、4－5）10 新潟大

〔順位〕①富山大②金沢大③信州大④新潟大

北陸地区国立大学体育大会

（7月15日／富山大）

〈男子〉

▼1回戦
金沢大 44－10 富山医大
富山大 25－23 福井大

▼3位決定戦
福井大 29－26 富山医大

▼決勝
金沢大 26（11－4、15－5）9 富山大

〈女子〉

▼エキジビジョン
富山大 21（9－9、12－6）15 金沢大

国体新潟予選

（7月19日／柏崎工高体育館）

〈成年男子〉

▼1回戦
全新潟 24－17 新潟教員
柏崎ク 28－10 柏崎シルバー

▼決勝
全新潟 34（17－14、17－10）24 柏崎ク

〈少年男子〉

▼1回戦
新潟選抜 22－9 長岡大手
中越 27－8 長岡高専

▼決勝
新潟選抜 43（29－9、14－7）16 中越

〈少年女子〉

▼決勝
新潟江南 38（19－2、19－0）2 長岡選抜

四国

全国高校愛媛県予選

（日程不明／松山北、松山南高）

〈男子〉

▼1回戦
今治東 38－7 新居浜商
伊予 17－16 新田
新居浜東 40－8 松北中島
吉田 20－14 松山中央

▼2回戦
新居浜工 23－20 今治東
今治工 20－18 今治南
宇和島南 31－12 松山工
松山西 28－8 伊予
今治西 25－6 新居浜東
松山東 35－14 松山商
松山南 23－13 新居浜西
松山北 53－5 吉田

▼3回戦
新居浜工 31－11 今治工
松山西 27－14 宇和島南
今治西 13－11 松山東
松山北 21－13 松山南

▼準決勝
新居浜工 13－10 松山西
松山北 22－10 今治西

▼決勝
松山北 20（11－8、9－8）16 新居浜工

※松山北は3年ぶり5度目の優勝

〈女子〉

▼1回戦
新居浜東 16－13 松北中島
伊予農 17－15 今治東
土居 17－8 松山中央

▼2回戦
松山北 27－4 新居浜東
大島 43－6 西条
新居浜商 23－4 今治西
弓削 24－12 伊予農
東温 33－4 伊予
今治南 38－7 松山西
三崎 42－6 松山商
今治北 50－2 土居

▼3回戦
松山北 25－3 大島
弓削 23－11 新居浜商
今治南 20－10 東温
今治北 28－8 三崎

▼準決勝
松山北 10－8 弓削
今治北 13－7 今治南

▼決勝
松山北 13（5－5、8－4）9 今治北

※松山北は35年ぶり2度目の優勝

第27回香川県中学校総体

（7月25、26日／光洋中学）

〈男子〉

▼1回戦

山田 16－11 玉藻

古高松 17－16 光洋

紫雲 21－11 勝賀

▼2回戦

香川一 22－13 山田

香東 14－13 綾南

古高松 29－8 桜町

木太 29－14 紫雲

▼準決勝

香川一 20－9 香東

木太 20－13 古高松

▼決勝

木太 19（10－6、9－7）13 香川一

※木太は初優勝。

〈女子〉

▼1回戦

香東 15－7 桜町

香川一 17－4 光洋

▼2回戦

山田 12－3 香東

木太 16－7 紫雲

古高松 15－6 綾南

香川一 15－7 塩江

▼準決勝

山田 18－8 木太

香川一 18－1 古高松

▼決勝

山田 18（9－3、9－5）8 香川一

※山田は3年連続3回目の優勝。

九州

第11回鹿児島春季社会人大会

（4月25日、7月12日）

〈男子〉

▼1回戦

鹿児島ク 47－27 鹿児島大

鹿屋体育大 50－35 財部ク

海自鹿屋 30－20 鹿児島経大

ソニー国分 37－29 第一工大

▼2回戦

鹿児島ク 50－32 鹿屋体育大

ソニー国分 43－27 海自鹿屋

▼決勝

鹿児島ク 35（18－16、17－13）29 ソニー国分

〈女子〉

▼決勝

ソニー国分 39（17－4、22－8）12 オール鹿児島

第25回全九州学生選手権大会

（6月19～21日／長崎県国際体育館、長崎工業高校体育館）

〈男子〉

▼1回戦

宮崎大 24（10－13、14－5）18 西日本大

鹿児島大 19（8－10、11－8）18 九州共大

大分大 33（13－12、20－8）20 沖縄国際大

熊本大 31（12－11、11－12、8－6）29 熊本商大

鹿屋大 32（17－14、15－14）28 西南学院大

▼2回戦

九州大 34（14－8、20－15）23 第一工業大

福岡教大 31（13－13、18－10）23 九州産大

長崎大 30（13－2、17－7）9 熊本工大

琉球大 31（16－7、15－5）12 宮崎大

福岡大 44（20－3、24－5）8 鹿児島大

大分大 31（16－11、15－12）23 長崎総科大

東和大 30（14－9、16－12）21 熊本大

久留米工大 44（23－7、21－7）14 鹿屋体大

▼3回戦

福岡大 28（16－3、12－7）10 九州大

琉球大 28（13－9、15－9）18 大分大

東和大 30（14－5、16－13）18 長崎大

久留米工大 31（17－7、14－11）18 福岡教大

▼5位決定戦

福岡教大 34（19－8、15－15）23 九州大

▼準決勝

福岡大 27（15－8、12－9）17 東和大

久留米工大 23（9－8、9－10、0－1、1－0、2－1、2－1）21 琉球大

▼3位決定戦

東和大 36（24－10、12－16）26 琉球大

▼決勝

福岡大 28（15－12、13－11）23 久留米工大

〈女子〉

▼1回戦

鹿児島大 22（8－3、14－6）9 長崎大

▼準決勝

九州女大 24（9－2、15－2）4 琉球大

福岡大 32（17－4、15－6）10 鹿児島大

▼3位決定戦

鹿児島大 35（15－6、20－4）10 琉球大

▼決勝

福岡大 28（18－3、10－6）6 九州女大

第16回鹿児島県中学春季大会

（6月20、21日／国分市体育館）

〈男子1部〉

▼予選リーグ

○A組

東谷山 15－9 伊敷

伊敷 20－7 重富

東谷山 20－7 重富

○B組

国分 19－8 鹿児島大附

鹿児島大附 22－4 谷山

谷山 13－11 国分

▼決勝トーナメント1回戦

東谷山 14－13 鹿児島大附

国分 13－11 伊敷

▼決勝

東谷山 18（9－6、9－6）12 国分

〈男子2部〉

▼1回戦

国分 15－14 東谷山

伊敷 10－9 重富

▼決勝

国分 14（6－5、8－6）11 伊敷

〈女子〉

▼リーグ戦

鹿児島大附 8－6 東谷山

重富 5－5 谷山

鹿児島大附 16－4 重富

東谷山 7－6 谷山

鹿児島大附 5－2 谷山

東谷山 13－8 重富

〔順位〕①鹿児島大附②東谷山③谷山④重富

「日本ハンドボール史」購入の申し込みをお早めに

みなさますでに御承知のように、日本ハンドボール協会創立50周年を記念しての「日本ハンドボール史」が、今春無事完成致しました。

この冊子は、右の内容を御覧いただいてもわかりますように、日本ハンドボール界の50年の歩みを余す所なく御紹介するとともに、これまで埋もれていた様々なエピソードを紹介し、記録としても、読物としても大変興味深いものとなっております。

これまで日本ハンドボール界のために尽くしてこられた方々にも、また、今後日本ハンドボール界を背負っていただく方々にも、是非御一読いただきたいと思います。

〔「日本ハンドボール史」の主な内容〕

〔体裁〕Ｂ５判　880頁　ケース入り
〔主な内容〕
- 日本ハンドボール50年の歩み
- 47都道府県協会史
- 全国連盟・団体の歩み
- ハンドボール史を彩るエピソード
- 全国大会の記録をすべて
- 海外の主要な大会（オリンピック、世界選手権、アジア大会など）の記録

〔定価〕　7000円

※次第に残り部数が少なくなってきておりますので、御希望の方は、なるべく早めに下記宛お申し込み下さい。

〒150東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育館内
㈶日本ハンドボール協会
「日本ハンドボール史」係
TEL　03-481-2361

asics TIGER®

アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

百個のグリップ力。アウトドア専用。

マルチコンソールが、グラウンドを確実にグリップする。初のアウトドアハンドボールシューズ、スカイハンド®SL。

アウターソールには、片足に100個以上のポイントを独特の形状で配置。アウトドアのグラウンドコンディションに確実に応えるハンドボールシューズの登場です。側面には傾斜をつけ、倒れ込みシュートを打ちやすく。かかと部を拡げて着地衝撃を吸収しやすい形状に。大空での空中戦を、十二分に意識した、初めてのハンドボールシューズです。

品番 THH 501 品名 スカイハンド®SL
メーカー希望小売価格 ¥9,200
カラー/ホワイト×レッド
ホワイト×ネイビーブルー
サイズ/22.5～28.0cm